

# 気象談話会の記録



## 気象談話会の記録

第1回～第305回の記録は、「気象科月例読書会、気象科月例談話会、気象管理科月例農業気象談話会 300回の歩み」(農業環境技術研究所気象管理科、1987年2月発行)による。同資料の「まえがき」全文を、本記録の末尾に転載した。  
(注意)第148回は重複。

1～15. (記録逸散で復元不能)

16. 1958年7月2日

a: 礮部誠之 (気象科)

文献紹介

The Light Regime within Pastures. K.J. MITCHELL and D.H. CALDER, 1958

N.Z. J. Agric. Res. 1, No.1, 61-68

b: 小沢行雄 (気象科)

インドの農業気象研究の紹介

c: 内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

湖水上における熱・水蒸気の交換過程の研究.

M.P.Timofeev 編 Trudy G.G.O. No.59, PP.76, 1956

17. 1958年9月3日

a: 今井和彦 (気象科)

F.N.Shekhter: 平均気温伝導係数の計算について.

Trudy G.G.O. No.69, 87-93, 1957

b: 谷 信輝 (気象科)

宮崎県下防災営農調査団に参加して

18. 1958年10月1日

a: 氷高信雄 (気象科)

強風が稲の受粉及び受粉変芽に及ぼす影響に就いて

b: 礮部誠之 (気象科)

稲田のエネルギー収支

19. (不詳)

20. 1958年12月3日

a: 谷 信輝 (気象科)

論文紹介

H.L. Penman: Estimating Evaporation.

Trans. Amer. Geophys. Union, 37(1), 43-50, 1956

b: 大沼一己 (気象科)

水稻の冷水被害について

21. 1959年2月4日

a: 久保祐雄 (気象科)

ソビエトの農業気象について

b: 三原義秋 (気象科)

OEDの全国実用化試験の結果について

c: 中村千里 (気象科)

OEDによる土壌面蒸発制御の効果について

22. 1959年3月4日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

水温の熱収支気候学的研究

b: 井上栄一 (気象科)

接地気層内の乱流拡散現象

23. 1959年4月15日

a: 谷 信輝 (気象科)

H.L. Penman, Evaporation: An Introductory Survey.

Netherlands J. Agric. Sci., Vol.4, No.1, Feb. 1956

b: 久保祐雄 (気象科)

ソ連における蒸散・蒸発に関する研究

c: 三原義秋 (気象科)

一つの提案

24. 1959年6月3日

a: 中川行夫 (気象科)

文献紹介

The Mechanism of Stomatal Movement. H.J. Ketellapper

Amer. Jour. Bot. Vol.46, No.3, Mar., 1959, 225-231

b: 小沢行雄 (気象科)

日本の凍霜害について

c: 山本信一 (気象科)

上北機械開こん地区を見て

25. 1959年7月1日

- a: 谷 信輝 (気象科)  
文献紹介  
G・Yamamoto: Theory of Turbulent Transfer in Non-Neutral Conditions.  
Journ. Met. Soc. Japan, Vol.37, No.2, 1959
- b: 井上栄一 (気象科)  
接地気層における気温変動について
- c: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
湖水温の計算法について  
M.P. Timofeer, Meteor. i Gidro., No.12. 4-9, 1958

26. 1959年9月2日

- a: 大沼一己 (気象科)  
文献紹介  
A.R. Croft: Water Loss by Stream Surface Evaporation and Transpiration.
- b: 三原義秋 (気象科)  
文献紹介  
W.W. Mansfield: The influence of monolayers on evaporation from water storages. (1), (2), (3)
- c: 小沢行雄 (気象科)  
北海道根釧原野の開発について

27. (不詳)

28. 1959年10月7日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
A.V. Perepelkina: 乱流熱フラックスの決定について  
Izv.AN USSR ser Geofiz., No.7. 1026-1053, 1959
- b: 中村千里 (気象科)  
文献紹介  
Wind stress on a water surface: measurements at low wind speeds with the aid of surface films.  
R.G. Vines: Quart. J. R. Met. Soc., 85, 159-162, 1959  
Mansfield Process.  
CSIRO. Rural Research, 28, 26-30, 1959

29. 1959年11月11日

- a: 谷 信輝 (気象科)  
耕地風の測定結果について
- b: 井上栄一 (気象科)  
大気汚染の計算方法について
- c: 三原義秋 (気象科)  
寒冷地稲作の技術水準に関する研究を読んで

30. 1959年12月9日

- a: 中村千里 (気象科)  
文献紹介  
W.J. Roberts: Reducing Lake Evaporation in the Midwest.  
J. Geophys. Res., 64 (1959), 1605-1610
- b: 坪井八十二 (気象科)  
水稻の暴風被害に関する生態学的研究
- c: 礒部誠之 (気象科)  
水稻群落の複素屈折率について

31. 1960年2月10日

- a: 礒部誠之 (気象科)  
水田の反射能
- b: 小沢行雄 (気象科)  
煙層の赤外線透過について

32. 1960年3月2日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
ソビエトの気候の分類  
ア.ア.グリゴルエフ., エム. イ. ブドイコ  
Izv AN USSR, ser Geograficheskaja, 1959, No.3, 3-19.
- b: 氷高信雄 (気象科)  
出穂期以前の各種風速処理による水稻花器の發育異常
- c: 山本信一 (気象科)  
東京における日射・照度・紫外線の強さについて

33. 1960年4月20日

- a: 氷高信雄 (気象科)  
禾穀類の倒伏に関する文献紹介
- b: 谷 信輝 (気象科)  
倒伏に関する力学的考察

34. 1960年5月4日

- a: 井上栄一 (気象科)  
大気汚染と農作物との関係についての研究
- b: 谷 信輝 (気象科)  
文献紹介  
H.L. Penman and I.F. Long, Weather in wheat: an essay in micro-meteorology  
Q. J. R. M. S. 86(367), 16-50, 1960

35. 1960年6月1日

- a: 氷高信雄 (気象科)

禾穀類の倒伏性の遺伝に関する文献紹介

b: 谷 信輝 (気象科)

鴻巣測定の検討

c: 小沢行雄 (気象科)

煙層の赤外透過に関する研究 (第3報) 実効放射抑制についての実験結果

36. 1960年7月6日

a: 井上栄一 (気象科)

米国の農業気象会議(1957,1958 and 1960)について

b: 三原義秋(気象科)

OEDの単分子膜及び乳化液の二三の特性について

37. 1960年9月8日

a: 小沢行雄 (気象科)

凍霜害防除のための煙の有効濃度分布について

b: 谷 信輝 (気象科)

文献紹介

J.L. Monteith and G.Szeicz: The Carbon dioxide flux over a field of sugar beat

Q. J. R. M. S., 86(368), 205-214, 1960

c: 中川行夫 (気象科)

札幌よりかえりて

d: 大沼一己 (気象科)

題未定

38. 1960年10月13日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

森林の熱収支 : Yu. L. Rauner

Izv. ANSSSR, Geography, 1960, 1, 49-59

b: 斉藤隆幸 (気象科)

大気輻射の測定

39. 1960年12月14日

a: 谷 信輝 (気象科)

物理第2研究室における耕地風の測定について

b: 三原義秋 (気象科)

米国の農業気象研究機関視察談

40. 1961年2月1日

a: 大沼一己 (気象科)

苗代被覆資材としてのポリエチレンフィルムについて

b: 磯部誠之 (気象科)

水稻集落の光消衰係数

41. 1961年3月15日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
水温環境からみた農業気候区分
- b: 齊藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
Measured radiative flux divergence near the ground at night. by J.P. Funk  
Q. J. R. Met. Soc., Vol.86, No.369, 1960.

42. 1961年4月10日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
論文紹介  
海面のアルベドと短波放射項の日変化  
A.A. Pivovapov, V.S. Lavorko, Met & Hidro. No.1, 1961
- b: 井上栄一 (気象科)  
大気中の炭酸ガス量に関する各種の測定について

43. 1961年5月17日

- a: 水高信雄 (気象科)  
風速と植物の生育
- b: 井上栄一 (気象科)  
1950年以降の接地気層乱流研究の進歩
- c: 坪井八十二 (気象科)  
今後の水稲冷害に対する各県の予想と考え方

44. 1961年6月14日

- a: 井上栄一 (気象科)  
胞子の空中飛散に関する気象学的研究
- b: 三原義秋 (気象科)  
人工気象室の種類と構造について
- c: 小沢行雄 (気象科)  
土地調査のための日本の気候区分について

45. 1961年7月5日

- a: 齊藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
Difference between Net Radiation and Water Use caused by Radiation from the Soil Surface.  
Paul E. Waggoner and W.E. Reitsnyder, Soil Science, 91-4 (1961)
- b: 三原義秋 (気象科)  
人工気象室の種類と構造について
- c: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
Radiation balance on the northern globe, Izv.AN USSR, ser.Geograficheskaja. No.1, 3 -12, 1961

46. 1961年9月13日

- a: R.H. Krishnan (バトクタイ試験場長)  
Rice cultivation in Madras
- b: 三原義秋 (気象科)  
Honoluluにおける農業気象シンポジウムの話
- c: 斉藤隆幸 (気象科)  
植物群落内部の蒸散量及び拡散係数の垂直分布に対する熱収支法の適用

47. 1961年10月4日

- a: 久保祐雄 (気象科)  
プノンペンにおける熱収支と水収支について
- b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
水田用水量の熱収支気候学的推定
- c: 磯部誠之(気象科)  
文献紹介  
K. Ia. Kondratiev: 自然表面の分光反射能, Meteor. i Hydro., No.5, 1960

48. 1961年11月6日

- a: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
地面付近の長波純放射の高度分布の数値計算法  
J.P. Funk: J. Met. No.3, 1961
- b: 小沢行雄 (気象科)  
農業気象学会大阪大会に出席して
- c: 井上栄一 (気象科)  
文献紹介  
Musgrave-Lemonらの論文 "Photosynthesis under field conditions, I , II ,III" について

49. (不詳)

50. 1961年12月7日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
地殻表層の構成・進化における熱交換・水交換の役割ならびに農作物の生産へのそのの意義  
A.A.Grigorev :Thermal and Hydrologic States on the Earth s Surface.  
Izv.AN USSR, ser Geography, 128-143, 1960
- b: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
Measurement of evaporation and heat transfer in the lower atmosphere by an automatic eddy-correlation technique. A.I. Dyer. Q. J. R. Met., Vol.87, No.373, 1961
- c: 井上栄一 (気象科)  
Gaastraの同化作用測定について



51. 1962年2月7日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

The method for evaluating the monthly effective radiation.

N.A. Efimova: Met. i Gidro., No.10, 28-33. 1961

b: 斉藤隆幸 (気象科)

水稲圃場に於ける微気象の観測

c: 井上栄一 (気象科)

1961年真に高田で行われたイモチ孢子の空中飛散量の測定

52. 1962年3月14日

a: 坪井八十二 (気象科)

水田作・茶・柑橘の全国会議へ出席して一主として気象関係の研究についての報告

b: 内嶋善兵衛 (気象科)

植被層の微気候に関する研究(報告)

53. 1962年4月16日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

Some Ways of Influence on Climate. Budyko, M.I.: Meteor. i Gidrology, No.2, 3-8, 1962

b: 井上栄一 (気象科)

文献紹介

近刊図書「Microbiology of the Atmosphere by P.H.Gregory, London, 1961」をよんで

c: 氷高信雄 (気象科)

稲の倒伏害について

54. 1962年5月21日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

植被層内における物理量の輸送

b: 佐伯敏郎 (東大 理)

植物群落における光条件

c: 林 健一 (気象科)

水稲群落の受光態制について

d: 礮部誠之 (気象科)

植物群落内の光の状態

55. 1962年6月11日

a: 中川行夫 (気象科)

温州ミカンの寒害について (スライドによる)

b: 井上栄一 (気象科)

接地気象と虫の行動との関係についての文献的研究

56. 1962年7月18日

- a: 井上栄一 (気象科)  
The environment of plant surfaces. (Canberra Symposium 用 paper)
- b: 黒岩澄雄 (東大 植物園)  
晴天下の群落内光状態と光合成について

57. 1962年9月17日

- a: 三原義秋 (気象科)  
文献紹介  
Membrane-Covered Electrode for Oxygen Measurements in Soils. C.R. Willer & C.B. Tanner
- b: 磯部誠之(気象科)  
ポリエチレンフィルム被覆下の蒸発量の評価

58. 1962年10月8日

- a: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
C.B. Tanner and V.E. Suomi: Lithium Chloride Dewcel Properties and Use for Dew-Point and Vapor pressure Gradient Measurements. Transaction American Geophysical Union, Vol.37, No.4, (1956)
- b: 久保祐雄 (気象科)  
農業問題の当面する諸問題
- c: 小沢行雄 (気象科)  
農業気象研究について

59. 1962年11月5日

- a: 中川行夫 (気象科)  
乳牛の気象環境に対する反応および牛舎の改良について
- b: 坪井八十二 (気象科)  
柑橘栽培の限界気象条件について
- c: 磯部誠之 (気象科)  
麦畑の運動量吸収係数・抵抗係数  
Zeroplane displacementと運動量吸収の関係について

60. 1962年12月11日

- a: 久保祐雄 (気象科)  
文献紹介  
デンメッド・シャウ両氏著の有効土壌水分の紹介
- b: 小林勝次 (気象科)  
蒸散抑制剤の特性
- c: 坪井八十二 (気象科)  
水稻冷害の危険度推定方法の一試案

61. 1963年1月14日

- a: 中川行夫 (気象科)  
畜舎の気象環境の改良 (その2)
- b: 坪井八十二 (気象科)  
地域気候と稲作設計
- c: 三原義秋(気象科)  
水面蒸発防止の国際会議に出席して

62. 1963年2月5日

- a: 中川行夫 (気象科)  
農業気象学会中・四国支部講演会に出席して
- b: 氷高信雄 (気象科)  
稲の倒伏に関する2・3の実験
- c: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
A theory of air drainage. R.G. Fleagle. J. Met., 7-3, 227-232. (1950)

63. 1963年3月18日

- a: 礒部誠之 (気象科)  
文献紹介  
Albert P. Kruger, Sadao Kotabe and Paul C. Andriese: Studies on the Effects of Gaseous Ions on Plant Growth. 1. The influence of positive and negative air ions on the Growth of Avena Sativa. J. Gen. Physiolog, 45. (1962), 879-895
- b: 柑橘の寒害についての見学報告会
  1. 坪井八十二: 全般及び三重県 静岡県 兵庫県
  2. 三原義秋: 広島県 山口県
  3. 久保祐雄: 愛媛県 高知県
  4. 中川行夫: 静岡県

64. 1963年4月15日

- a: 三原義秋 (気象科)  
雨滴の水田攪拌についての二三の実験
- b: 斉藤隆幸 (気象科)  
麦畑内の風速分布をあらわす経験式

65. 1963年5月20日

- a: Prof. Dr. E.R. Lemon  
Soil Scientist (Physics), Agricultura Service. VSOA. Ithaca, N.Y.  
Professor of Soil Physics. Cornell University. Ithaca, N.Y.  
Corn畑における水・風・CO<sub>2</sub>と同化作用 (仮題)
- b: 井上栄一 (気象科)  
豪州における Visiting Scientist生活の報告

66. 1963年6月24日

- a: 林 堯 (気象科)  
土壌面蒸発について
- b: 三原義秋 (気象科)  
畑中氏の海況変動周期と冷害
- c: 久保祐雄 (気象科)  
防風垣に関する2・3の観察

67. 1963年7月22日

- a: 井上栄一 (気象科)  
オーストラリアの風物スライド
- b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
イサカの風物スライド

68. 1963年9月16日

- a: 泊 功 (気象科)  
愛媛大学農業気象学研究室の最近の研究について
- b: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
Spatial Distribution of Net Radiation in a Corn Field.  
O.T. Denmead, L.J. Fritschen and R.H. Shaw, Agronomy Journal, Vol.54, 505-510. 1962
- c: 井上栄一 (気象科)  
International Journal of Agricultural Meteorology へのreview執筆計画について.  
"Agrometeorological studies on the rice-growth in Japan"

69. 1963年10月21日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
トウモロコシ植被層内の風に関する実験的研究
- b: 久保祐雄 (気象科)  
柑橘の寒風害について(1)
- c: 磯部誠之 (気象科)  
小麦畑内の水蒸気拡散係数の測定

70. 1963年11月18日

- a: 小沢行雄 (気象科)  
館野周辺の気候について
- b: 宮沢数雄 (気象科)  
谷田部付近の土壌について
- c: 宮坂悟郎 (気象科)  
貿易自由化と日本農業

71. 1963年12月12日

- a: 中川行夫 (気象科)  
寒害の気象的防除法について

- b: 三原義秋 (気象科)  
文献紹介  
J.Y. Wang著 Agricultural Meteorology (1963) の紹介
- C: 坪井八十二 (気象科)  
柑橘の適地判定事等の本年の結果

72. 1964年1月20日

- a: 泊 功 (気象科)  
文献紹介  
Convection phenomena from plants in still air.  
David M. Gates and Charles M. Benedict, Amer. Jour. Bot., 50(6), 1963
- b: 氷高信雄 (気象科)  
文献総合紹介  
クローバー類の採種量と気象条件との関係

73. 1964年2月10日

- a: 井上栄一 (気象科)  
炭酸ガス微気象学序説
- b: 林 堯 (気象科)  
文献紹介  
Long-wave radiation from clear skies. W.C. Swinbank: Q. J. Royal Meteorol. So., Vol.89, No.381,  
1963
- c: 小林勝次 (気象科)  
文献紹介  
Solar radiation in Israel. G. Stanhill: Bull. Research Council of Israel, Vol.11G, 1962

74. 1964年3月16日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
ソビエト領ヨーロッパ地区における光合成有効放射量の地理的分布  
F.Moldau他, Photosynthesis and problems on productivity of plants.149-158, 1963
- b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
圃場における植物の光合成量を増加させる方法について  
A.A. Nichiporovich. Photosynthesis and problems on productivity of plants, Ibid., 5-36, 1963

75. 1964年4月27日

- 伊藤 博 (生理遺伝部)  
極高温乾燥地 (イラク) における植相と気象

76. 1964年5月18日

- a: 斉藤隆幸 (気象科)  
柑橘葉の蒸散量・葉温・葉面熱伝達係数への放射および風の影響について

- b: 氷高信雄 (気象科)  
稲の倒伏に関する 2・3 の実験

77. 1964年6月15日

- a: 小堀 巖 (東大 理)  
砂漠と農業気象
- b: 久保祐雄 (気象科)  
利根流域における水収支

78. 1964年7月27日

- a: 山本信一 (山梨県 専技)  
ナイジェの稲作を指導して
- b: 三原義秋  
(総合報告) 紹介  
P.C. Ekern: The Evapotranspiration of pineapple in Hawaii.

79. 1964年9月21日

- a: 小沢行雄 (気象科)  
文献紹介  
Animal Housing and Meteorology (I) Ventilation and Associated Patterns of Air Flow.  
C.V. Smith: Inter. Jour. Agri. Met., 1(1), 30-41.
- b: 氷高信雄( 気象科)  
水害について

80. 1964年10月19日

- a: 礮部誠之 (気象科)  
拡散抵抗について
- b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
Semi-empirical theory of transpiration. (Budagovsky)

81. 1964年11月16日

- a: 林 堯 (気象科)  
文献紹介  
The diffusivity of water in a porous material.  
A. J. Pack: Australian Journal of Soi Research, Vol.2, 1-7. (1964)
- b: 小林勝次 (気象科)  
文献紹介  
Effectiveness of poletylene when used as a cover for greenhouses.  
Rollo H. Dean: Weather Forecasting Mimeo, 61-20
- c: 泊 功 (気象科)  
最近のOEDに関する 2・3 の文献紹介

82. 1964年12月21日

- a: 佐伯敏郎 (東大 理)  
オーストラリアのファイトトロンについて
- b: 斉藤隆幸 (気象科)  
文献紹介  
Water and cloud temperatures measured from U-2 aircraft.  
Carl F. Konoski: Bull. Amer. Met. Societ., 45, 581-586. 1964
- c: 氷高信雄 (気象科)  
稲の倒伏に関する数種の実験報告(倒伏と雨滴の打圧・倒伏と稈の吸水圧及び通水抵抗ほか)

83. 1965年1月11日

- a: 井上栄一 (気象科)  
畦間気流研究の方法について
- b: 泊 功 (気象科)  
文献紹介  
Radiation and Convection in Conifers.  
E.C. Tibbals, Ellen K. Carr, David M. Gales and Frank Kreith: Amer.Jour. Bo., 51(5), 1964
- c: 小林勝次 (気象科)  
蒸発におよぼすトウモロコシ植被の影響について

84. 1965年2月22日

- 上村賢治 (気象科)  
ドイツの農業気象

85. 1965年3月15日

- a: 久保祐雄 (気象科)  
昭和39年度水稲会議に出席して
- b: 小沢行雄 (気象科)  
鬼無里村の小気候 (その1)

86. (不詳)

87. 1965年5月24日

- a: 堀江 武 (気象科)  
水稲の登熟と発芽力に及ぼす穂部温度の影響
- b: 三原義秋 (気象科)  
U.S.A.における最近の蒸発抑制法の研究

88. 1965年6月21日

- a: 氷高信雄 (気象科)  
作物の水害 (総合紹介)
- b: 斉藤隆幸 (気象科)  
平地及び窪地の夜間の気温・風速の比較

89. 1965年7月19日

a: 林 堯 (気象科)

文献紹介

Evaporation of Water: Its Retardation by Monolayers.

Victor K. La Her and Thomas W. Healy: Science, Vol.148, No.3666, 36-42. 1965

b: 内嶋善兵衛 (気象科)

Growth Chamberの微気象 (予報)

90. 1965年9月27日

井上栄一 (気象科)

ソビエト・アメリカ・デンマークの旅より

91. 1965年10月25日

小元敬男 (流動研究員)

メソ気象学—その方法と応用

92. 1965年11月20日

a: 斉藤隆幸 (気象科)

接地気層の放射による冷却の大きさとそれより推定された乱流熱輸送量の高度分布について

b: D. Newkirk

Lake Hefner Project.

93. 1965年12月20日

a: 泊 功 (気象科)

文献紹介

Radiation and Convection for Ponderosa Pine.

David M. Gales, E.C.Tibbals and Frank Kreith: Amer. Jour. Bot., 52(1), 66-71, 1965

b: 久保祐雄 (気象科)

ミカンの寒風害

94. 1966年1月24日

a: 堀江 武 (気象科)

大豆に関する作物気象研究の歴史的展開

b: 宇田川武俊 (生理2科)

麦畑上の空気力学的特徴量の生育にともなう変化

95. 1966年2月21日

三原義秋 (気象科)

西ヶ原農業気象研究18年を振り返って

96. 1966年3月28日

磯部誠之 (気象科)



97. 1966年4月25日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

Spectral radiation conditions of corn field and calculation of photo-synthetically active radiation:

Kherbert Niilisk

b: 林 堯 (気象科)

文献紹介

Influence of the thickness and free porosity of a dried layer on evaporation: L.K.Tselishcheva

Soviet Soil science, 3月号, 1965, 257-260

98. 1966年5月23日

谷 信輝 (気象科)

九州農業試験場畑作部気象災害研究室における研究の概要

99. 1966年6月27日

a: 宇田川武俊 (生理2科)

文献紹介

Stomatal Physiology : H.J. Ketellapper

Ann.Rev. Plant Physiology, 14, 249-270

b: 氷高信雄 (気象科)

稲の倒伏に関する問題 (減収・共振・植付深などについて)

100. 1966年7月18日

a: 礮部誠之 (気象科)

農業気象的研究に於ける境界的研究に関する問題

b: 谷 信輝 (気象科)

日本の農業気象界に課せられた諸問題

101. 1966年9月26日

a: 上村賢治 (気象科)

北海道の低温害

b: 谷 信輝; 久保祐雄 (気象科)

畑地灌漑現地検討会に出席して

c: J·A·Businger ( Univ. of Washington )

“ Radiation in plant canopies ”

102. 1966年10月24日

a: 齊藤隆幸 (気象科)

植物群落の夜間冷却におよぼす放射量・風速の影響

b: 泊 功 (気象科)

降雨による桜桃の実割の機構

103. 1966年11月28日

- a: 上村賢治 (気象科)  
    植被層のエネルギー収支
- b: 堀江 武 (気象科)  
    作物群落光合成の評価について

104. 1966年12月26日

- a: 磯部誠之 (気象科)  
    一様に分布した葉面積を持つ群落における光強度－葉面積指数方程式の第1次解と、その光合成問題への応用
- b: 上村賢治 (気象科)  
    降霜予報式について

105. 1967年1月30日

- 内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
生産因子としての植物の光合成活動の研究に関する諸問題, A.A. Nichiporovich, 1966

106. 1967年3月13日

- a: 谷 信輝 (気象科)  
    農業気象関係東北ブロック会議報告
- b: 井上栄一 (気象科)  
    農業気象関係九州ブロック会議報告

107. 1967年4月24日

- a: 氷高信雄 (気象科)  
    稲の倒伏に関係する形質の時期による変化と倒伏抵抗性
- b: 泊 功 (気象科)  
    The temperature of tree trunks-calculated and observed.  
    Roger W. Derby and David M.Gates: Amer.Jour. Bot., 53(6), 1966

108. 1967年5月29日

- a: 小元敬男 (流動研究員)  
    わが国における降ひょうの特徴
- b: 久保祐雄 (気象科)  
    数種農作物の適地－気温の観点から－

109. 1967年6月26日

- a: 齊藤隆幸 (気象科)  
    文献紹介  
    Surface Temperature Inversion in a Canyon.: Aylmer H.Thompson. Journal of Applied Meteorology, Vol.6.

b: 堀江 武 (気象科)

文献紹介

Method for Calculating the Photosynthetic Response of a Crop to Light Intensity and Leaf Temperature by an Energy Flow Analysis of the Meteorological Parameters.

Idso S.B. and Baker D.G. Agronomy Journal, Vol.59, No.1, 1957

110. 1967年7月24日

谷 信輝 (気象科)

寒冷紗の防風効果

111. 1967年9月25日

小元敬男 (流動研究員)

気象・気候の人工変化－現状と問題点－

112. 1967年10月30日

内嶋善兵衛 (気象科)

農業気象における気象調節－農業のフィジカルコントロール－

113. 1967年11月20日

泊 功 (気象科)

今年の早魃による柑橘の被害状況について

114. 1967年12月18日

堀江 武 (気象科)

文献紹介

Photosynthesis Under Field Conditions. I-IX.

－Cornell University の Lemon 一派と Musgrave 一派のトウモロコシ群落光合成に関する一連の仕事の紹介－

115. 1968年1月29日

a: 上村賢治 (気象科)

牧草畑における放射および蒸発散について

b: 上村賢治 (気象科)

霧の発生予想により修正した最低温度の推定と実測データの比較

116. 1968年2月19日

a: 磯部誠之 (気象科)

統計量の Monitoring の方法について

b: 堀江 武 (気象科)

文献紹介

A Simple Foliage Model for Studying Light Penetration.

C.N. Williams and Soong Ngjin Kwi, Annals of Botany, 31, 783-790, 1967

117. 1968年3月22日

氷高信雄 (気象科)

稲の倒伏と被害の発生機構について

118. 1968年5月8日

奥野忠一 (調査科)

文献紹介 (多変量解析の気象への応用)

The Representation of the Daily Sets of Humidity Mixing Ratio, Temperature, and Wind Measurements at Adelaide:

L.G.Veitch など

119. 1968年5月27日

高見晋一 (流動研究員)

文献紹介 (人工葉と風洞内気流間の運動量・物質および熱の交換)

The Exchange of Momentum, Mass, and Heat between an Artificial Leaf and Airflow in a Wind-tunnel.:

Thom. A.S., Quat. J. R. Met. Soc., 94, 44-55 1968

120. 1968年6月24日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

トウモロコシ群落内への直達光の透入と葉面光強度

b: 谷 信輝 (気象科)

静岡県柑橋試験場の気象改良工法に関する風洞模型実験

121. 1968年7月22日

齊藤隆幸 (気象科)

文献紹介

Transport of Lycopodium Spores and Other Small Particles to Rough Surface.:

Chamberlain, A. C., Proc. Roy. So., Seri.A, Vol.296, 45-70, 1967

122. 1968年9月17日

内嶋善兵衛 (気象科)

ソビエトにおける光合成研究を見学して

123. 1968年10月28日

a: 井上栄一 (気象科)

植物群落の物質生産研究における微細気象学の役割

b: 谷 信輝 (気象科)

文献紹介

A Low-speed Wind Tunnel for Model Studies in Micrometeorology.

R.A. Wooding, Div. Plant Industry Tech. Paper No.25, 1968, CSIRO

124. 1968年11月25日

a: 真木太一 (気象科)

植被層内外の風速分布式中の地面修正量および粗度長の相互関係について  
—ソルゴーおよびトウモロコシの場合—

b: 上村賢治 (気象科)

茶園の微気象 (1) 冬期における垂直温度分布の日変化

125. 1968年12月16日

a: 泊 功 (気象科)

文献紹介と蒸散抵抗の問題点

Resistance to Water Loss in the Mesophyll of Leek ( *Auimum porrum* ).

R.A. Fischer, Jour. Exp. Bot., 19(58), 1968

b: 内嶋善兵衛 (気象科)

トウモロコシ群落内における葉面交換係数ならびに気孔交換係数についての若干の結果

126. 1969年1月27日

a: 堀江 武 (気象科)

文献紹介

Photosynthesis in Townsville Lucerne (*Stylosanthes Humilis* H.B.K.).

J.E. Begg and P.G. Jarvis, Agricultural Meteorology, 5, 91-109, 1968

b: 小元敬男 (流動研究員)

メソスケールの風系について

127. 1969年2月24日

a: 磯部誠之 (気象科)

ルーサーン内の風速変動のスペクトルの変化

b: 井上栄一 (気象科)

植物葉面の周囲空気との間の輸送あるいは交換抵抗の概念について

128. (不詳)

129. (不詳)

130. 1969年3月24日

a: 齊藤隆幸 (気象科)

群落内の乱れの大きさおよび拡散係数

b: 堀江 武 (気象科)

ヒマワリ群落の光合成について

c: 宇田川武俊 (生理2科)

ヒマワリの群落構造の生育に伴う変化

131. 1969年4月21日

井上栄一 (気象科)

「農業気象研究の立場より気象農業研究の立場への飛躍のために」

132. 1969年6月24日

井上栄一 (気象科)

1968年度の Ed Lemons group (Cornell Univ.)の仕事について—最近とどいた Annual Progress Report of Microclimate Investigationから見出された彼等の仕事ぶりについて概観する—

133. 1969年7月28日

a: 上村賢治 (気象科)

バルク法による蒸発散量推定の際、地表面温度を使用しない場合の誤差について

b: 久保祐雄 (気象科)

日本における農業気象災害について

134. 1969年9月29日

泊 功 (気象科)

多分子膜被覆による植物の水分制御

135. 1969年10月12日

a: 井上栄一 (気象科)

農業気象と光合成に関する国際会議に出席して

b: 小元敬男 (流動研究員)

アメリカにおける気象の人工変換研究の現状

136. 1969年11月24日

内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

葉の光合成函数の数学的モデル化:

A. Laisk, Fotosintez i Produktivnost Rastitelnogo Pokrova, Tartu, 5-45. 1968

137. 1969年12月15日

上村賢治 (気象科)

ヨーロッパにおける“生物物理学”(Biophysik)的研究についての一連の文献紹介

1. 植物の物質代謝の生物物理学的モデル

2. エネルギー収支のための生物物理学的モデル

3. 水収支および孔辺細胞機構のための生物物理学的モデル

138. 1970年1月19日

谷 信輝 (気象科)

システム農業研究の提案

139. 1970年2月14日

塩見正衛 (調査科)

文献紹介

Grasslands Management, Research, AND Training viewed in a Systems Context: M. Van Dyne, 1969

140. 1970年3月 日

堀江 武 (気象科)

文献紹介

Simulation of a Pasture-Environment Interaction. G.F. Byrne and K. Tognetti, Agr. Meteorol., 6, 151-163, 1969

141. 1970年4月27日

栗田 滉 (物理統計部)

物理統計部の25年間

142. 1970年6月1日

谷 信輝・久保祐雄 (気象科)

総括検討会議および学会シンポジウムをめぐって

143. 1970年6月29日

磯部誠之 (気象科)

立毛内部の非線型的現象

144. 1970年7月20日

内嶋善兵衛 (気象科)

夜間における無換気温室の温度状態と熱伝達

145. 1970年

斉藤隆幸 (気象科)

文献紹介

Profile relationships : the log-linear range and extension to strong stability.

E.K. Webb, Q. J. R. Met. Soc., 96, 67-90, 1970

146. 1970年10月26日

a: 谷 信輝 (気象科)

文献紹介

Effect of Climate on Growth of Rice. FAO, IRC報告より

b: 上村賢治 (気象科)

文献紹介

赤外線放射温度計による表面温度の測定について

—主として、D.Lorenzの一連の観測の紹介—

147. 1970年11月30日

a: 泊 功 (気象科)

単葉の蒸散と拡散抵抗についての紹介

b: 堀江 武 (気象科)

ヒマワリ群落の光合成について

148. 1970年12月21日

井上栄一 (気象科)  
「この20年間に考えたこと」

148. 1971年1月25日

谷 信輝 (気象科)  
農業気象研究の構想

149. 1971年2月22日

礒部誠之 (気象科)  
一般化高速フーリエ変換とその応用

150. 1971年4月5日

小元敬男 (気象科)  
気象調節に関する日米合同セミナーに出席して

151. 1971年4月30-日

- a: 谷 信輝 (気象科)  
昭和45年度農業気象総括検討会議報告
- b: 泊 功 (気象科)  
“農業気象学会のあり方”第1回談話会の討論から、その結果報告

152. 1971年5月31日

- 真木太一 (気象科)
- 1. 南極における接地気層中の風・気温の特性について
  - 2. 南極越冬生活いろいろ

153. 1971年6月14日

久保祐雄 (気象科)  
気象科あれこれ

154. 1971年7月26日

阿部玄三 (気象科)  
青森農試における農業気象研究の反省と農研気象科に対する期待

155. 1971年9月27日

- a: 礒部誠之 (気象科)  
群落内の風のスペクトル解析およびその結果
- b: 松島省三 (気象科)  
オーストラリアの農業研究諸機関の見学
- c: 井上栄一 (気象科)  
オーストラリアおよびニュージーランドの映画

156. 1971年10月25日

- a: 内嶋善兵衛 (気象科)



文献紹介

The effect of solar radiation variations on the climate of the earth:

M.I. Budyko, Tellus 21, 611-619. 1969

b: 及川武久 (東大 理)

群落構造と群落内の風の流れとの相互作用からみた群落光合成の動的過程  
ーモンテカルロシミュレーションモデルによる実験的アプローチー

157. 1971年11月29日

斉藤隆幸 (気象科)

トウモロコシ群落内の風速分布について

158. 1971年12月13日

a: 堀江 武 (気象科)

文献紹介.

A Model of a Growing Pasture: G.W. Paltridge. Agr. Meteorol., 7, 93-130, 1970

b: 上村賢治 (気象科)

気候からみた旱魃の危険度区分法

159. 1972年1月31日

泊 功 (気象科)

日射・波長別測定の問題点

160. 1972年2月14日

a: 井上君夫 (気象科)

文献紹介

A Numerical Study of Atmospheric and Soil Boundary Layers.

Takashi Sasamori, Journal of the Atmospheric Sciences, Vol.27, No.8, 1122-1137, 1970

b: 上村賢治 (気象科)

ミニコンによる計測制御・データ処理のやり方(1) 計測制御における主要問題

161. 1972年3月13日

a: 真木太一 (気象科)

南極データ解析経過報告

b: 井上栄一 (気象科)

日本のAMTEX (Air Mass Transformation Experiment) 計画に関連して

162. 1972年4月17日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)

農作物と気候変動

b: 阿部玄三 (気象科)

水稻冷害に関する実際的研究

163. 1972年5月29日

磯部誠之 (気象科)  
植物被覆内の光パターン

164. 1972年6月26日

齊藤隆幸 (気象科)  
大気汚染物質の沈着について

165. 1972年7月24日

上村賢治 (気象科)  
気候区分のための要因分析

166. 1972年9月25日

- a: 岩切 敏 (気象科)  
文献紹介  
「境界層の力学」第一編, 接地気層(S.S. Zilitinkevich著)の紹介
- b: 谷 信輝 (気象科)  
文献紹介  
「成長の限界」ローマクラブ報告の紹介

167. 1972年10月30日

- a: 堀江 武 (気象科)  
植物群落の物質再生産モデルについての文献紹介
- b: 寺沢四郎 (化学部)  
クウェートの昨今

168. 1972年11月27日

泊 功 (気象科)  
気孔の動きについて

169. 1972年12月19日

井上君夫 (気象科)  
文献紹介

Momentum, mass and heat exchange of vegetation: A.S. Thom, Quart. J. R. Met. Soc., 98, 124-134,  
1972

170. 1973年1月29日

真木太一 (気象科)  
接地気層中の安定状態における乱流観測

171. 1973年2月19日

- a: 阿部亥三 (気象科)  
圃場管理に対する農業気象知識の利用例—とくに収量予測的立場から—
- b: 井上栄一 (気象科)

滞米雑感

172. 1973年4月23日

内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

野外条件下での葉面拡散速度の決定

173. 1973年5月28日

礒部城之(気象科)

文献紹介

1. Topographic effects Apparent in Nocturnal Temperature Profiles in a Conifer Canopy.

J.D. Bergen, Agric. Meteorol., 9.

2. Turbulence in Wheat Crop.

G.B.K. Baines, Agric. Meteorol., 10.

3. Spatial and Temporal Variation of Wind above and within a Soybean Canopy.

E.R. Perrier, J.M. Robertson, R.J. Millington and D.B. Peters, Agric. Meteorol. 10.

174. 1973年6月18日

上村賢治 (気象科)

圃場最低温度予報装置について

175. 1973年7月30日

斉藤隆幸 (気象科).

都市の気候について

176. 1973年9月25日

堀江 武 (気象科)

植被内の光質環境について

177. 1973年10月26日

岩切 敏 (気象科)

ハウス栽培キュウリの群落構造と光合成

178. 1973年11月26日

谷 信輝 (気象科)

東南アジア, オーストラリアの農業気象網査

179. 1973年12月18日

泊 功 (気象科)

文献紹介

Analysis of Variance in Solar Radiation, Data beneath a Forest Canopy and et al: S.Y. Shieh

180. 1974年1月28日

- a: 上村賢治 (気象科)
- b: 内嶋善兵衛 (気象科)
- 食糧生産と気候変動について(ソ連・東欧)

181. 1974年2月25日

- 井上君夫 (気象科)
- 文献紹介

The Budgets of Turbulent Kinetic Energy and Temperature Variance in the Atmospheric Surface Layer:  
J.C. Wyngard and O.R.Cote, J.Atmos. Sci., 78, 190-201. 1971

182. 1974年3月11日

- 井上栄一 (気象科)
- 「トンガ紀行」8mm映画

183. 1974年5月22日

- 阿部亥三 (気象科)
- 文献紹介
- 「満州農業地理」横田廉一著

184. 1974年6月24日

- 真木太一 (気象科)
- 文献紹介

Aerodynamic Roughness of Vegetated Surfaces: Ido Seginer, Boundary-Layer Met., 5, 1974

185. 1974年7月29日

- 磯部誠之 (気象科)
- 指数平均法による熱流束の連続測定

186. 1974年9月25日

- 斉藤隆幸 (気象科)
- 都市の気温のなりたち

187. 1974年10月28日

- 谷 信輝 (気象科)
- 日本の気候と作物収量

188. 1974年11月25日

- a: 泊 功 (気象科)
- 文献紹介

Model Experiments on Free-Convection Heat and Mass Transfer of Leaves and Plant Elements.:  
P.H. Schuepp, Boundary-Layer Met., Vol.3, No.4.

- b: 井上栄一 (気象科)

三つの会合にまつわるヨーロッパ, フィリピン紀行 (8mm映画つき)

189. 1974年11月23日

堀江 武 (気象科)

1. 光強度とキュウリの葉面積生長について
2. ヨーロッパにおける物質生産、シミュレーション等の研究事例の紹介

190. 1975年1月28日

岩切 敏 (気象科)

文献紹介

植物群落の構造と生産過程の数学的モデル化 (総説): Kh. Tooming, 一般生物学雑誌, 35(2), 181-195

191. 1975年2月25日

内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

気候変化の半経験的理論, M.I. Budyko, 1974

192. 1975年3月31日

井上君夫 (気象科)

文献紹介

I. Line Source Carbon Dioxide Release Field Experiment

L.H. Allen Jr., R.L. Desjardins, and E.R. Lemon, Agron. J., 65, 609-615, 1974

II. Line Source Carbon Dioxide Release: Two-Dimensional Numerical Diffusion Model

L.H. Allen Jr., Agron. J., 65, 615-620. 1974

193. 1975年4月21日

a: 高見晋一 (流動研究員)

Leaf action model (LAM) とその応用

b: 阿部玄三 (気象科)

畑作物の収量予測と収量の地域性

194. 1975年5月30日

真木太一 (気象科)

種々の粗面上における空力変数と粗度高度

195. 1975年6月30日

礒部誠之 (気象科)

地面付近の放射熱輸送に対する経路積分の応用

196. 1975年7月28日

齊藤隆幸 (気象科)

1. 文献紹介

A Simple Method of Calculating Dispersion from Urban Sources

S.R. Manna, J. Air Poll. Control Assoc., Vol.21, 1971

## 2. その他

197. 1975年9月29日

谷 信輝 (気象科)

WMO第6回CAgM (農業気象委員会)-Oct, 1974- について

198. 1975年10月27日

井上栄一 (気象科)

風力に関する二, 三の問題

199. 1975年12月19日

a: 谷 信輝 (気象科)

海外調査の報告

b: 泊 功 (気象科)

農業気象部門における重要研究問題についての私見

200. 1976年1月26日

a: 掘部淑子 (気象科)

文献紹介

都市気候学 - 都市の霧と雲 - 大後美保著

b: 堀江 武 (気象科)

Continuos System Model Programing(CSMP)とその応用について

201. 1976年3月1日

a: 岩切 敏 (気象科)

世界の食糧問題雑感 -L.R. Brown(1975)の論説紹介を中心にして-

b: 内嶋善兵衛 (気象科)

10°C 以上期間の有効積算気温の変動性について

202. 1976年3月29日

齊藤隆幸 (気象科)

農業気象研究に対する感想

203. 1976年4月30日

井上君夫 (気象科)

文献紹介

Computing the Energy Budget of a Leaf Canopy With Matrix Algebra and Numerical Integration.

G.M. Furnival, P.E. Waggoner and W.E. Reifsnnyder, Agricultural Meteorology, 14, 405-416, 1975

204. 1976年5月24日

阿部亥三 (気象科)

畑地灌漑に関する総合抄録 - とくに寒冷地における研究事例 -

205. 1976年6月28日  
磯部誠之 (気象科)  
移流と蒸発散について
206. 1976年7月20日  
内嶋善兵衛 (気象科)  
ビニールハウス内の散乱放射環境
207. 1976年9月27日  
a: 佐々木忠勝 (岩手農試)  
岩手県の稲作期間における気象について  
b: 真木太一 (気象科)  
我が国の柑橘産業における寒害予報と寒害防止法について
208. 1976年10月27日  
a: 森田鈍行 (高知県農林技術研究所)  
高知県の園芸施設の環境制御に関する若干の結果  
b: 奥山富子 (気象科)  
文献紹介  
「全国イネ冷害実体調査アンケート」に関連して
209. 1976年11月30日  
a: 谷 信輝 (気象科)  
文献紹介  
－気候インパクトの米生産に及ぼす影響－ J. Stansel and R.E. Huke, 1975  
b: 井上栄一 (気象科)  
9月に行われたCambridgeとEdinburghにおける二つの会合 (8mmつき)
210. 1976年12月23日  
堀江 武 (気象科)  
Lange, O.L.ら (Wurzburg Univ., Germany) の蒸散, 光合成, 気孔抵抗に関する一連の仕事の紹介
211. 1977年2月7日  
泊 功 (気象科)  
新大型研究「農林水産業における自然エネルギーの効率的利用に関する総合研究」について
212. 1977年2月28日  
岩切 敏 (気象科)  
稲作気象研究の現状と問題点
213. 1977年3月29日  
泊 功 (気象科)  
農業気象技術研究に対する反省と期待

214. 1977年4月27日

井上君夫 (気象科)

文献紹介

Horizontal Coherence and Pasquill'S Beta

Hans A. Panofsky and Tateke Mizuno, Boundary-Layer Meteorology, Vol.9, No.3, 247-256. 1975

215. 1977年5月23日

井上栄一 (気象科)

ソビエトの科学私見(8ミリ映写付)

216. 1977年6月29日

a: 桜谷哲夫 (気象科)

冷水とイネの生育収量

b: 内島立郎 (気象科)

近年の稲作気温の特徴

217. 1977年7月25日

井上栄一 (気象科)

退官記念講演—私の気象科二十六年史—

218. 1977年9月26日

阿部亥三 (気象科)

水稲冷害防止対策技術研究の現状と問題点

219. 1977年10月24日

礒部誠之 (気象科)

積算日射と積算純放射の関係の年変化

220. 1977年11月28日

内嶋善兵衛 (気象科)

温量指数および暖房デグリーアワーの変動特性について

221. 1977年12月19日

谷 信輝 (気象科)

環境保全指標

222. 1978年1月30日

a: 堀江 武 (気象科)

気孔抵抗と環境条件について

b: 岩切 敏 (気象科)

WMOアジア地区の農業気象研修セミナーに出席して—タシケント紀行—



223. 1978年3月3日  
桜谷哲夫 (気象科)  
稲体の熱的性質について一時に蒸散流との関係から一
224. 1978年4月3日  
真木太一 (気象科)  
米国出張 (バートギャランティ) 報告
225. 1978年4月24日  
井上君夫 (気象科)  
水稲群落内の風の時一空間相関について
226. 1978年5月31日  
内島立郎 (気象科)  
麦類凍霜害の実態と問題点
227. 1978年6月26日  
a: 奥山富子 (気象科)  
文献紹介  
気象とくらし-「観天望気入門」より-  
b: 阿部亥三 (気象科)  
冷害年の気候タイプと水稲作柄
228. 1978年7月31日  
磯部誠之 (気象科)  
接地気層における乱れの閉じたモデル
229. 1978年9月25日  
内嶋善兵衛 (気象科)  
文献紹介  
Remoto-Sensing of Crop Yields
230. 1978年10月24日  
谷 信輝 (気象科)  
農業気象の将来
231. 1978年11月27日  
堀江 武 (気象科)  
キュウリの光合成、生長のシミュレーションについて
232. 1978年12月25日  
a: 堀川知広 (茶業試・三方原試験地)  
静岡県の茶栽培と気象要因との関連について-とくに収量、萌芽期について

b: 岩切 敏 (気象科)

文献紹介

Growth and Maintenance Requirements of Subterranean Clover. X.J. McCree and J.H. Silsby,

1978

233. 1979年1月29日

真木太一 (気象科)

1. 湖における顕熱・潜熱輸送について
2. 植被層内外の乱流要素の垂直分布

234. 1979年3月5日

桜谷哲夫 (気象科)

ヒートパイプの原理と応用

235. 1979年3月27日

井上君夫 (気象科)

文献紹介

Urban-Rural Solar Radiation and Atmospheric Turbidity Measurements in the Los Angeles Basin.

J.T. Peterson, E.C. Flowers and J.H. Rudisill, J. Appl. Meteor., 17, 1595-1609, 1978

236. 1979年5月7日

内島立郎 (気象科)

豆類の気象反応

237. 1979年5月28日

岡田益己 (気象科)

中国の施設園芸を訪ねて

238. 1979年6月25日

阿部亥三 (気象科)

凶作冷害こぼれ話

239. 1979年7月31日

磯部誠之 (気象科)

移流問題の解について

240. 1979年9月25日

谷 信輝 (気象科)

第7回CAgMの話題

241. 1979年11月5日

内嶋善兵衛 (気象科)

文献紹介

窒素化合物揮散の空気力学的測定 (Denmead)

242. 1979年11月28日

奥山富子 (気象科)

西ヶ原における太陽放射量について (1976年～1978年)

243. 1979年12月24日

堀江 武 (気象科)

文献紹介

Effect of the Reserve pool on the Relationship between Respiration and Photosynthesis.

Moldau H. and Karolin A.

(Inst. of Astrophysics and Atmospheric Physics of the Academy of Sciences, ESSR)

Photosynthetica, II, 38-49. 1977

244. 1980年1月25日

岩切 敏 (気象科)

文献紹介

冬コムギの収量形成過程のモデル化 : H.S. Kulikら, 1979

245. 1980年3月31日

a: 真木太一 (気象科)

防風網の冷害気象改善効果

b: 岩切 敏 (気象科)

続・稲作気象研究の環状と問題点

246. 1980年4月30日

桜谷哲夫 (気象科)

1. 文献紹介

The Relationship Between Transpiration Rate, Water Potential, and Resistances to Water Movement in Sunflower. (*Helianthus annuus* L), C.R. Black: J. Exptl. Bot., 3., 115, 1979

2. 八重山の農業と自然 (スライド)

247. 1980年5月30日

井上君夫 (気象科)

CLOSURE MODELによる植物群落内の乱流特徴量のシミュレーション

248. 1980年6月30日

内島立郎 (気象科)

文献紹介

植物の温度反応における生理学的不連続点

249. 1980年7月30日

岡田益己 (気象科)

温室の温度環境のシミュレーションモデルについて

250. 1980年10月8日  
内島立郎 (気象科)  
韓国稲作事情
251. 1980年10月29日  
阿部玄三 (気象科)  
昭和55年の冷害に関連して
252. (不詳)
253. 1980年12月22日  
礮部誠之 (気象科)  
夜間放射の発散の測定
254. 1981年1月26日  
谷 信輝 (気象科)  
昭和55年の冷害と今後の技術・営農対策に関する検討会の紹介
255. 1981年2月23日  
堀江 武 (気象科)  
気象と作物の光合成および蒸散一個葉および固体群レベルでの測定、モデル化そしてシミュレーションー
256. 1981年3月30日  
a: 真木太一 (気象科)  
防風網による風の変質について  
b: 阿部玄三 (気象科)  
タイ国の気象条件と農業
257. 1981年5月11日  
桜谷哲夫 (気象科)  
植物茎内の蒸散流量測定法の開発とその応用
258. 1981年5月28日  
井上君夫 (気象科)  
水田微気象環境のシステムモデルーその構成とシミュレーション結果ー
259. 1981年7月17日  
a: 堀江 武 (気象科)  
ブラジル国セラードにおける蒸発散の測定  
b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
農業気象雑感

260. 1981年10月19日

- a: 奥山富子 (気象科)  
茨城県における1980年の気象概況と農林団地周辺気象
- b: 堀江 武 (気象科)  
収量予測および適地判定に関する研究を振り返って
- c: 堀江 武 (気象科)  
第13回国際植物学会 (シドニー大学) に出席して

261. 1981年11月6日

- 川島茂人 (気象科)  
冬期夜間の大気-土壌系モデルとシミュレーション

262. 1981年12月22日

- 磯部誠之 (気象科)  
パラグアイの農業気象活動

263. 1982年1月27日

- 林 勇 (神奈川園試)  
花キ栽培における省エネルギー技術の現況及び試作エア-インフレーションハウスについて

264. 1982年3月31日

- 高橋晶子 (青森農試)  
昭和56年青森県下の冷害について

265. 1982年9月16日

- a: 内島立郎 (気象科)  
韓国気象災害研究計画について
- b: 桜谷哲夫 (気象科)  
ブラジルの農業気象研究 (その一端)

266. 1982年11月4日

- 岡田益己 (気象科)  
地中伝熱量の測定について

267. 1983年3月22日

- Dr. Thomas, J. Herbert (Associate professor of Biology, University of Miami)  
文献紹介  
Daily Leaf Movement and Orientation to Light in Tropical Plants

268. 1983年4月11日

- 谷 信輝 (気象科)  
農研・気象科・30年

269. 1983年5月27日

鮫島良次 (気象科)  
畜舎内の気象環境

270. 1983年6月24日

a: 真木太一 (気象科)  
防風施設に関する研究の現状について  
b: 岡田益己 (気象科)  
気象観測用テレメータ装置の概要

271. 1983年7月22日

a: 内嶋善兵衛 (気象科)  
炭酸ガスと資源・環境問題  
b: 内嶋善兵衛 (気象科)  
日本海中部地震による農作物被害状況 (スライド)  
c: 内島立郎 (気象科)  
今年の北海道の低温と作物被害状況

272. 1983年8月25日

a: 茂木孝夫 (群馬園試)  
群馬県の主要気象災害について－ひょう害および凍霜害－  
b: 阿部玄三 (気象科)  
水稻冷害に関する若干の問題点  
c: 内島立郎 (気象科)  
北海道・青森県の6・7月の低温と作物生育状況

273. 1983年10月17日

a: 李 亮秀 (韓国農業技術研究所)  
韓国と日本の稲作期間中の気温条件－特に冷害年を中心として－  
b: 真木太一 (気象科)  
畑地防風網の気象改良効果および防風施設の実態調査について  
c: 堀江 武 (気象科)  
作物の生育・収量と水分供給

274. 1983年11月25日

a: 川島茂人 (気象科)  
クラスター分析の小気候分類への応用  
b: 岩崎 尚 (気象科)  
CO<sub>2</sub> 濃度変化についての2・3の問題  
c: 礪部誠之 (気象科)  
バヌアツにおける農業気象事業の開発

275. 1983年12月23日

a: 鮫島良次 (気象管理科)

開放型牛舎の屋根開口部による防暑効果

b: 阿部亥三 (気象管理科)

気象条件と麦類収量との関係および麦類バイオマス量の推定の一例

276. 1984年1月30日

桜谷哲夫 (気象管理科)

Actual evapotranspiration の推定に関する最近の話題

277. 1984年2月27日

井上君夫 (気象管理科)

水稻の気孔抵抗と気象要因

278. 1984年3月30日

a: 中島秀治 (気象管理科)

私と肥料分析法と20年

b: 堀江 武 (気象管理科)

物質生産と気象

279. 1984年4月27日

a: 金野隆光 (気象管理科)

土壌および生態気候区分別の微生物活性の特性把握と予測

b: 内嶋善兵衛 (気象管理科)

自然植生の一次生産力と気候条件 (筑後モデル)

280. 1984年5月30日

加福領二 (気象管理科)

文献紹介

Energy and mass transfer in plant communities.

A.A. Nichiporovich, Heat and Mass Transfer in the Biosphere. Transfer Processes in Plant Environment, 427-441, 1975

281. 1984年6月28日

阿部亥三 (気象管理科)

肌で感じた山背風地帯の農業研究

282. 1984年7月26日

野内 勇 (気象管理科)

日本における大気汚染の現状と問題点

283. 1984年8月31日

小林和彦 (気象管理科)

農業生産に及ぼす大気汚染インパクトの量的評価－農業環境科学の課題と現状－

284. 1984年10月8日

谷 信輝 (前気象科長)  
韓国農業気象 1.5年間

285. 1984年10月30日

a: 竹澤邦夫 (気象管理科)  
二次元乱流と秩序形成  
b: 川方俊和 (気象管理科)  
群落の乾物生産と気象要因

286. 1984年11月22日

a: 野内 勇 (気象管理科)  
葉脂質成分におよぼすオゾン・PANの影響  
b: 小林和彦 (気象管理科)  
大気汚染質が作物の生長率に及ぼす影響の評価法

287. 1984年12月25日

a: 豊田政一 (農研センター 作2部)  
C3,C4,CAM 作物の太陽エネルギー利用効率と生産性  
b: 内嶋善兵衛 (気象管理科)  
中国の気候と農薫の管見

288. 1985年1月21日

a: 井上君夫 (気象管理科)  
土壌面からのCO<sub>2</sub>放出量の評価法の検討  
b: 許 一鳳 (韓国農業技術研究所)  
水稻の光－乾物変換効率に対する施肥窒素の影響

289. 1985年2月27日

a: 岡田益己 (気象管理科)  
作物の気象的生育調節手法の検討－温室環境調節法を例にして－  
b: 川島茂人 (気象管理科)  
散水による微気象のコントロール－茶樹の高温障害防止－

290. 1985年3月25日

真木太一 (気象管理科)  
接地風の構造と防風網の機能に関する研究の経緯

291. 1985年4月24日

河内 宏・米山忠克 (生物資源研 N固定研)  
植物体内における炭素と窒素の流れの定量的研究



292. 1985年5月24日

岩崎 尚 (気象管理科)

カナダ・合衆国飛びあるき記－政府機関における農業気象研究の動向－

293. 1985年6月26日

礒部誠之 (気象管理科)

夜間における気象のエネルギー収支

294. 1985年7月24日

a: 林 陽生 (気象管理科)

風に対してflexibleな群落の微気象

b: 氷高信雄 (気象管理科)

グレインソルガムの適地・適作期について

295. 1985年8月28日

渡辺 久 (愛媛県農試)

1. 愛媛県農業試験場の環境測定実験施設

2. ハウスの天窓開閉に対する農家の判断基準

296. 1985年10月1日

a: 内嶋善兵衛 (気象管理科)

CO<sub>2</sub> 倍増による農業気候資源分布の変化とその純一次生産への影響

b: 野内 勇 (気象管理科)

光化学オキシダントの植物被害の発現機構

297. 1985年10月28日

a: 川方俊和 (気象管理科)

文献紹介

A simple model of potato growth and yield(1) Model development and sensitivity analysis.

D.K.L. Mackerron and P.D. Waister, Agric·Meteoro., 34, 241-252, 1985

b: 鮫島良次 (農研センター 気象災害研)

文献紹介

Soyphen:Soybean growth stages model from temperature,daylength and water availability.

T.·Hodges and V.·French, Agronomy Journal, 77, 500-505, 1985

298. 1985年11月28日

a: 安部 章 (大分県農試)

1. ハクサイの生長解析

2. 大分県の農業研究

b: 金野隆光 (気象管理科)

総合紹介

酸性雨と農業生態系

- c: 川島茂人 (気象管理科)  
航空機MSSデータによる地表面熱収支分布の推定

299. 1986年1月29日

- a: 小林和彦 (気象管理科)  
作物生長の定量的解析－生長解析の理論的展開－
- b: 礒部誠之 (気象管理科)  
韓国における水稲の微気象について

300. 1986年8月12日

- a: 内嶋善兵衛 (気象管理科)  
第300回気象談話会を迎えて－その過去と現在－
- b: 加福領二 (気象管理科)  
メッシュ気候の推定法に関する最近の研究
- c: 金野隆光 (気象管理科)  
耕林地への酸性雨の影響－その広がりとインパクト－

301. 1986年9月1日

- a: 青木正敏 (山口大 農学部)  
リモートセンシング法による植物葉のクロロフィル・水分含量の測定
- b: 内嶋善兵衛 (気象管理科)  
文献紹介  
「地球の気候破局」: Budyko, Golitsyn, Izrael, 1986

302. 1986年9月29日

- a: 沙 国棟 (中国江蘇省農業科学院)  
文献紹介  
中国における水稲の光温資源および光エネルギーの利用に関する研究 高 亮之ほか3名:中国農業科学, 1984
- b: 竹澤邦夫 (気象管理科)  
ノンパラメトリック平滑化の生長解析への応用
- c: 礒部誠之 (気象管理科)  
日放射量の日射量に対する回帰式の季節変化とその物理的モデル
- d: 金野隆光 (気象管理科)  
私の研究の過去・現在・未来と気象管理科3年

303. 1986年10月24日

- a: 久米信夫 (埼玉県茶試)  
モデル街路空間内の微気象環境
- b: 井上君失 (気象管理科)  
モデルによる水田微気象 (1986年) の推定

304. 1986年11月26日

- a: 川方俊和 (気象管理科)  
水稲発育ステージ予測モデルの検討
- b: 五十嵐大造 (神奈川園試)  
キャベツの寒害とその対策ーとくにべたかけの効果についてー

305. 1986年12月22日

- a: 岩崎昭雄 (高知県農事試験場)  
気候資源によるイネの生育・収量の推定
- b: 沙 国棟 (中国江蘇省農業科学院)  
1. 総合紹介: 中国江蘇省の水稲栽培と気象研究  
2. 少照が水稲の登熟に及ぼす影響
- c: 林 陽生 (気象管理科)  
海南島の寒潮 (寒波) について
- d: 鳥谷 均 (筑波大学 地球科学系)  
安定層内における運動エネルギーの輸送とその季節変化

306. 1987年1月29日

- a: 野内 勇 (気象管理科)  
光化学オキシダントによる植物葉障害発現機構ー特に膜成分を中心にー
- b: 小林和彦 (気象管理科)  
光化学オキシダントが作物収量に及ぼす影響の予備的評価

307. 1987年3月30日

- a: 内嶋善兵衛 (気象管理科)  
研究の自分史(1950～1987)を語る
- b: 井上君夫 (気象管理科)  
題未定

308. 1987年7月8日

- a: 王 秀峰 (嫩江省農業科学院研究所)  
中国黒龍江省農業科学院における研究の現状
- b: 干場信司 (農土試 生産施設1研)  
寒冷地における畜舎環境

309. 1987年8月10日

- a: 矢島正晴 (気象管理科 気象生態研究室)  
IBSNATプロジェクトの概要について
- b: 小林和彦 (気象管理科 大気保全研究室)  
MGA(メカニスティックグロースアナリシス)について

310. 1987年10月22日

- a: 秋田重誠 (IRRI)  
IRRIにおける水稲生理の研究の現状

- b: 川島茂人(気象管理科 気象特性研究室)  
ヨーロッパ共同体ジョイントリサーチセンターの環境研究－北イタリアの田舎町にて－

311. 1987年11月27日

- a: 原菌芳信(気象管理科 大気保全研究室)  
ニュージーランドの自然と農業
- b: 岩田進午(農土試 農地整備部農地整備第1研究室長)  
土壌中の水の動態

312. 1987年12月22日

- a: 王 秀峰(気象管理科 気象特性研究室)  
陸稲圃場に於ける熱収支の観測
- b: 平井清一(気象管理科 気象生態研究室)  
作物生育情報の計測と解析

313. 1988年1月28日

- a: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)  
光化学オキシダントによる植物葉被害について
- b: 陽 捷行(農環研 影響調査研究室)  
地球規模でのメタン濃度上昇と環境生態系とのかかわり

314. 1988年2月29日

- a: 竹澤邦夫(気象管理科 気象生態研究室)  
新しい多変量解析法ACE (Alternating Conditional Expectations) の意味と使い方
- b: 川方俊和(気象管理科 気象生態研究室)  
作物の発育速度について
- c: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
メッシュ気候図における局地気象の推定法について

315. 1988年5月31日

- a: 内島立郎(気象管理科長)  
韓国農業気象災害研究計画について
- b: 林 陽生(気象管理科 気象特性研究室)  
東北タイ農業開発研究計画について

316. 1988年6月30日

- a: 内島立郎(気象管理科長)  
地球規模環境問題プロジェクトの最近の動向
- b: 谷 誠(林業試験場 気象研究室)  
林業試験場における気象研究

317. 1988年7月18日

- a: 清野 豁(気象管理科)

害虫の長距離移動と気象条件

- b: 横堀 誠(茨城県林業試験場)  
中部ヨーロッパにおける森林枯損の現状について

318. 1988年9月9日

- a: 野内 勇(気象管理科 大気保全研)  
国際オゾンシンポジウム参加テーマ「水稻・水田からのメタンの放出」と西ドイツ旅行記
- b: 小林和彦(気象管理科 大気保全研)  
ダイナミックグロースモデルを用いたダイズの生長・収量に及ぼすオゾンの影響の解析

319. 1988年9月26日

- a: 竹澤邦夫(気象管理科 気象生態研)  
生長モデルと学習型人工知能
- b: 岡田益己(気象管理科 気象生態研)  
作物生長モデルの開発と今後の展開

320. 1988年10月26日

- a: 安 在勲(気象管理科 気象資源研)  
大豆の生長解析とモデル化の試み
- b: 加福領二(農環研環境資源部)  
氷核作用について

321. 1988年11月30日

- a: 熊谷泰治(青森県農業試験場)  
メッシュ気温を用いた水稻作季の策定について
- b: 上原由子(広島県農業試験場)  
広島県のメッシュ気候図(日照時間・日射量)
- c: 日塔明広(宮城県農業センター)  
作物の気象生態反応のモデル化

322. 1988年12月22日

- a: 原菌芳信(気象管理科 気象特性研究室)  
傾斜地ブドウハウスの内部環境ならびに周辺部の微気象の特徴
- b: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
「An Introduction to the Theory of Climate」by A.S. Monin

323. 1989年1月26日

- a: 鞠子 茂(気象管理科 大気保全研究室、都立大理学部)  
個葉レベルでの物質生産特性に関する一連の研究について
- b: 川方俊和(気象管理科 気象生態研究室)  
「ワーゲニンゲンモデルとその適用の紹介」
- c: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
「An Introduction to the Theory of Climate」by A.S. Monin

324. 1989年3月28日

- a: 林 陽生(気象管理科 気象特性研究室)  
植物群落のゆれと乱流
- b: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
「An Introduction to the Theory of Climate」by A.S.Monin

325. 1989年4月25日

- a: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)  
水稻のメタン放出経路の謎
- b: 矢島正晴(気象管理科 気象生態研究室)  
水稻の生育診断と予測

326. 1989年5月30日

- a: 川島茂人(気象管理科 気象特性研究室)  
毎時気温値の補間方法について
- b: 後藤義明(森林総合研究所 森林環境部)  
森林火災について

327. 1989年6月27日

- a: 川島茂人(気象管理科 気象特性研究室)  
散水が耕地微気象に与える効果に関する研究
- b: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
「An Introduction to the Theory of Climate」by A.S.Monin(第4回)

328. 1989年9月21日

- a: 原菌芳信(気象管理科 気象特性研究室)  
建物の屋上緑化と微気象に及ぼす効果
- b: 大政謙次(国立公害研究所)  
植物の画像診断

329. 1989年10月30日

- 竹澤邦夫(気象管理科 気象生態研究室)  
地球外生態系への道

330. 1989年11月27日

- a: 井上吉雄(農研センター)  
野外条件における作物の遠隔モニタ手法
- b: 甲斐憲次(筑波大 地球科学系)  
ライダーによる黄砂現象の解明

331. 1989年12月14日

- a: 清野 豁(気象管理科 気候資源研究室)

メッシュデータによる農業気候資源の評価と利用

- b: 有原丈二(熱研センター)  
半乾燥熱帯地域における作物生産—とくにキマメ・ヒヨコマメを中心に—

332. 1990年1月23日

- a: 横沢正幸(農環研 気候資源研究室)  
An Introduction to the Theory of Climate (A.S.Monin)を読む
- b: 細野達夫(気象管理科 大気保全研究室)  
大気汚染物質の農作物に与える影響に関する研究について

333. 1990年3月26日

- a: 清野 裕(気象管理科 気候資源研究室)  
気候変化と作物モデルに関する国際ワークショップの報告
- b: 和田源七(熱研センター)  
IRRIにおける稲作研究について

334. 1990年4月10日

- a: 川島茂人(農研センター プロ6チーム)  
地表面近くの気象に関する研究をふりかえって
- b: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
アメリカの地球環境影響研究者訪問3週間

335. 1990年6月5日

- a: 竹澤邦夫(気象管理科 気象生態研究室)  
線形回帰は現実に答えられるか
- b: 細川卓也(高知園試 露地野菜科)  
高知県における露地野菜園芸の現状と問題点

336. 1990年7月2日

- a: 芳住邦雄(共立女子大学)  
降水中の硫酸塩および硝酸塩生成と過酸化水素
- b: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)  
長期低濃度オゾン暴露下における水稻の生長変化と根の生理機能変化

337. 1990年9月13日

- a: 岡野通明(千葉大学園芸学部)  
水は凍らない—作物の凍結温度について—
- b: 小泉信三(農業研究センター 水田病害研)  
いもち病菌胞子のイネ群落内での飛散・付着

338. 1990年10月25日

- 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
大気質オゾンによる作物減収評価システムの開発

339. 1990年11月22日

- a: 石川真一(筑波大 生物学)  
海岸植物の塩分感受性について
- b: 矢島正晴(気象管理科 気象生態研究室)  
二酸化炭素濃度上昇と作物生産

340. 1990年12月17日

- a: 江口 卓(農業環境技術研究所 資源・環境動態研究室)  
世界の降水量分布とその季節変化について
- b: 宮田 明(気象管理科 気象特性研究室)  
北海道農業における農業気象の役割ー北海道農試の農業気象研究をレビューするー

341. 1991年2月27日

- a: 笹木義雄(農業環境技術研究所 企画連絡室)  
海岸砂丘地における飛び砂と植生の関係
- b: 土谷彰男(気象管理科 気象特性研究室)  
ブラジル北東部の半乾燥地域におけるカーチング群落への水収支の影響

342. 1991年3月27日

- a: 笹木義雄(農業環境技術研究所 企画連絡室)  
気候資源研究室での研修を終えて
- b: 奥山富子(気象管理科 気候資源研究室)  
農業気象のはじまりと過ぎ去り日々
- c: 内島立郎(気象管理科)  
農業気象研究の今昔

343. 1991年4月23日

- a: 森永由紀(筑波大学地球科学系)  
衛星データを用いたユーラシア大陸の積雪の研究
- b: 川方俊和(気象管理科 気象生態研究室)  
恒温, 自然日長下の水稻の出穂とモデル化

344. 1991年6月3日

- a: 原菌芳信(気象管理科 気象特性研究室)  
半乾燥地の砂漠では蒸発しているか
- b: 三上正男(気象研究所)  
森林上のアルベード特性

345. 1991年6月25日

Dr. Yehezkel Cohen (Agricultural Research Organization, Israel)  
Using the heat pulse method for determining water requirement in the field and orchard.



346. 1991年7月18日

- a: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)  
非対称な競争のある植物個体群ダイナミクス
- b: 鮫島良次(農業研究センター)  
フロリダ大学見聞録

347. 1991年8月23日

Dr. David M. Olszyk (U.S.EPA Environmental Research Laboratory at Corvallis, Oregon, USA)  
Current status of the global change research project at the EPA Environmental Research Lab. Corvallis.

348. 1991年9月27日

- a: 杉田倫明(筑波大学水理実験センター)  
下部境界層測定からの広域熱収支の推定
- b: 細野達夫(気象管理科 大気保全研究室)  
人工酸性雨が農作物の生長に及ぼす影響

349. 1991年10月3日

Dr. Thomas R. Sinclair (University of Florida, Gainesville)  
Environmental Limits to Crop Growth and Yield.

350. 1991年10月29日

- a: 磯部誠之(気象管理科)  
接地気層－土壌層構造モデルとその太陽熱土壌消毒への適用
- b: 吉本真由美(気象管理科 気象特性研究室)  
－地上中心気圧の低下のメカニズムに関連して－

351. 1991年12月4日

- a: 古明地哲人(東京都環境科学研究所)  
クエート油井炎上による大気汚染状況
- b: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)  
水田からのメタンの放出機構

352. 1992年2月18日

- a: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
ビデオ“The Greening of Plant Earth”を視る
- b: 矢島正晴(気象管理科 気象生態研究室)  
タイ, マレーシアにおける作物モデル研究の現状

353. 1992年3月16日

Dr. Roger M. Gifford (CSIRO in Australia)  
The carbon dioxide fertilizing effect: Implications for balancing the global carbon budget.

354. 1992年5月12日

- a: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)  
アメリカの地球環境研究機関訪問3週間
- b: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
Nottingham大学農学部とLancaster大学を訪ねて

355. 1992年6月18日

- a: 中台利枝(東京農工大学大学院), 別宮有紀子(東京都立大学大学院)  
土壌呼吸測定法の比較…CO<sub>2</sub>濃度が土壌呼吸測定値に与える影響
- b: 鞠子 茂(国立環境研究所)  
広布種 (Widespread species) における生理生態的特性の地理的変異

356. 1992年7月20日

- a: 宮田 明(気象管理科 気象特性研究室)  
農環研微気象観測露場における温室効果ガスの観測
- b: 文字信貴(大阪府立大学農学部)  
森林における乱流輸送

357. 1992年7月28日

- 土谷彰男(気象管理科 気象特性研究室)  
退職記念講演

358. 1992年9月9日

- a: Dr. Steve R. Green  
(Environmental Physics, Horticultural and Food Research Institute of New Zealand)
  1. Modeling turbulent air flow through a forest using a wind tunnel and number simulation
  2. The whirlingig: The energy balance, transpiration and photosynthesis of an isolated tree
- b: Dr. Brent E. Clothier  
(Environmental Physics, Horticultural and Food Research Institute of New Zealand)
  1. The disc permeameter: In situ measurement of the soils hydraulic properties and chemical transport characteristics
  2. Measurement of root water uptake by heat-pulse determination of sapflow and by TDR

359. 1992年11月5日

- a: 石黒 潔(農業研究センター 水田病害研究室)  
イネいもち病防除意思決定への降水確率予報利用の試み
- b: 米村正一郎(気象管理科 気象生態研究室)  
赤外吸光分光法による大気COの測定

360. 1993年2月24日

- a: 申 建友(中国科学院蘭州砂漠研究所)  
Discussion on micrometeorology of desertification
- b: 李 勝功(中国科学院蘭州砂漠研究所)  
A brief introduction to the research state of the desertification in China

361. 1993年3月24日

加福領二(農業環境技術研究所 研究交流科)  
退職記念講演

362. 1993年4月9日

広沢祐二(清水建設(株) 技術研究所 沙漠・環境特別研究グループ)  
アラル海地域における環境破壊の現状と改善のための取り組み

363. 1993年5月25日

a: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)

Simulation of Atmospheric Ozone Impact on Rice Yield and Analysis of the Yield Loss Variations

b: 諸隈正裕(気象管理科 気象生態研究室)

イネ科C<sub>3</sub>, C<sub>4</sub>植物の個葉光合成速度の規制要因に関する研究

364. 1993年6月8日

横山宏太郎(農業環境技術研究所)  
南極の自然と生活

365. 1993年7月14日

a: 横沢正幸(気象管理科 気候資源研究室)

文献紹介

From Local to Global: The Lesson of Cellular Automata

M.J. Phipps: Individual-Based Models and Approaches in Ecology: Populations, Communities and Ecosystems, D.L. DeAngelis and L.J. Gross, ed., 1992.

b: 米村正一郎(気象管理科 気象生態研究室)

文献紹介

The Potential for Application of Individual-Based Simulation Models for Assessing the Effects of Global Change. H.H. Shugart, T. M. Smith, and W.M. Post, Annual Review of Ecology and Systematics, Vol.23, 1992.

366. 1993年9月28日

a: 野内 勇(気象管理科 大気保全研究室)

オゾンストレス下で生育した水稲の同化産物の転流および分配の変化と生長戦略

b: 桜谷哲夫(農業研究センター 気象災害研究室)

私の農業気象研究

367. 1993年10月7日

小澤行雄(元気象科)  
私と農業気象研究

368. 1993年10月27日

原蘭芳信(気象管理科 気象特性研究室)

北緯71度のツンドラのCO<sub>2</sub>収支と微気象

369. 1993年11月8日

Zdzislaw Bernacki

(Research Center of Agricultural and Forest Environment of Polish Academy of Sciences Poznan  
POLAND)

Influence of CO<sub>2</sub> on primary production of rice and maize crops: A RECAPITULATION OF RESEARCH  
PROJECT

370. 1993年12月7日

a: 矢島正晴(気象管理科 気象生態研究室)

欧州4ヶ国を訪問して—温暖化研究の現状

b: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)

タイへ行って驚いて、考えた。

371. 1994年3月25日

真木太一(農業研究センター 気象災害研究室)

中国トルファンの砂漠気候特性と改良

372. 1994年4月19日

a: 小林和彦(気象管理科 大気保全研究室)

アメリカでFACE(高濃度CO<sub>2</sub>圃場)を見た

b: 鮫島良次(国際農林水産業研究センター環境資源部)

中国新疆ウルムチ周辺の状況と今後の研究計画

373. 1994年5月31日

a: 鳥谷 均(気象管理科 気候資源研究室)

ヘリコプターを用いた気象観測

b: 原蘭芳信(気象管理科 気象特性研究室)

Elevated CO<sub>2</sub>はコムギの気孔に影響するか?

374. 1994年7月19日

a: 宮田 明(気象管理科 気象特性研究室)

“Footprint”とは何か?

b: 渡辺 力(森林総合研究所)

植物群落の微気象モデルとその応用例

375. 1994年9月27日

a: 吉本真由美(気象管理科 気象特性研究室)

北極域ツンドラの熱収支特性

b: 山田一茂(気象管理科 数理解析研究室)

気象変化からみた「仮称:あいまい栽培管理理論」は可能か?

376. 1994年11月21日
- a: 横沢正幸 (気象管理科 気候資源研究室)  
気象分野でのウェーブレット解析とその応用
  - b: 鈴木力英・谷田貝重紀代 (筑波大学地球科学)  
ユーラシア大陸において植生が大気の水収支に与える影響
377. 1994年11月28日
- 宮田 明 (気象管理科 気象特性研究室)  
オーストラリア観測事情－ OASIS Experiment について
378. 1994年12月16日
- a: 米村正一郎 (気象管理科 気象生態研究室)  
植生と大気との一酸化炭素のやりとりについて
  - b: 沼口 敦 (国立環境研究所大気研究室)  
気候変動と地表環境変動のモデルによる評価(レビュー)
379. 1995年1月30日
- a: 矢島正晴 (気象管理科 気象生態研究室)  
作物モデルの熱帯地方への適用とその問題点
  - b: 石黒 潔 (農業研究センター病害虫防除部)  
Eddy-fluctuation法に基づくランダムウォーク・マルコフモデルによる植物病原菌胞子の空中拡散の解析
380. 1995年2月27日
- a: 諸隈正裕 (気象管理科 気象生態研究室)  
高CO<sub>2</sub>濃度大気への光合成順化のメカニズムについて
  - b: Kazuhiko KOBAYASHI (National Institute of Agro-Environmental Sciences)  
Rice yield variability in the Northeast of Thailand as analyzed with the VSM (very simple model)
381. 1995年3月22日
- Walter C.Oechel (San Diego State University)  
CO<sub>2</sub> spring (Italy) and Free Air CO<sub>2</sub> Enrichment (FACE) in Natural Vegetation (California)
382. 1995年3月24日
- 磯部誠之さん退官記念講演
383. 1995年4月18日
- a: 粟屋善雄 (森林総合研究所, 林業経営部, 環境管理研究室)  
リモートセンシングによる森林モニタリング
  - b: 野内 勇 (気象管理科 大気保全研究室)  
水田から含硫ガスの発生とその要因
384. 1995年5月30日
- E. T. Kanemasu (College of Agricultural and Environmental Sciences, The University of Georgia)

Sustainable Agriculture in an Unsustaining World

385 1995年6月8日

横山 宏太郎(北陸農業試験場)  
第35次南極観測隊の越冬を終えて

386. 1995年8月16日

a : Ray Leuning (CSIRO, Center for Environmental Mechanics, Camberra, Australia)  
The relative merits of open-and closed-path analyzers for measurement of eddy fluxes  
b : Tom Denmead (CSIRO, Center for Environmental Mechanics, Camberra, Australia)  
Novel meteorological methods for measuring trace gas fluxes

387. 1995年8月31日

D. C. Reicosky (USDA, North Central Soil Conservation Research Laboratory)  
Gas exchange in agricultural ecosystems using a closed chamber

388. 1995年9月8日

沖 大幹(東京大学生産技術研究所)  
タイの水文気象とGEWEX/GAME/Topics in Thailand

389 1995年11月13日

a: 林 陽生(気象管理科 気候資源研究室)  
IGBP/GAIM国際研究集会に参加して—彼らは地球環境変化の影響をどのようにとらえているのか—  
b: 米村 正一郎(気象管理科 気象生態研)  
須田 江(農業研究センター 気象災害研究室)  
タイでの印象

390. 1995年12月21日

a: 小林 和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
イネのモデリングで太平洋の西—東—南を訪ねる  
b: 矢島 正晴(気象管理科 気象生態研究室)  
ポーランドの農業 --ヴィルコポルスカの農業景観を中心に—

391. 1996年1月25日

原菌 芳信(気象管理科 気象特性研究室)  
ツンドラ研究におけるAmericaの研究者の現状

392. 1996年2月26日

a : Gerrit Hoogenboom (University of Georgia)  
Modelling and Monitoring of Agro-Ecosystems  
b: Tatsuo Hosono (Air Quality Conservation Lab., NIAES)  
Effect of Temperature on the Conductance of Methane Diffusion through Rice Plants

393. 1996年3月13日  
a : Swen Vermeul (Lab. Of Climatic Resources, NIAES)  
Change of the eating habits of the Japanese in the last 50 years  
b : Steven W. Leavitt (Lab. Of Tree-Ring Research, University of Arizona)  
Stable-Carbon Isotopes in FACE Experiments to Quantify Carbon Cycling in Soils
394. 1996年4月5日  
David W. Lawlor (Integrated Approach to Crop Research, IARC-Rothamsted)  
Crop Plant Responses to Environment: Research at Rothamsted Experimental Station, UK
395. 1996年4月23日  
陳 青雲(中国農業大学)  
1. Environment characteristics of PO film greenhouses  
2. Present situation and prospects of agriculture, especially protected horticulture in China
396. 1996年5月23日  
a: 林 陽生(気象管理科 気候資源研究室)  
東アジアのコメの問題に関する素人的レビュー  
b: 鳥谷 均(気象管理科 気候資源研究室)  
NPPの研究の現状と将来
397. 1996年5月28日  
GENG, Shu (Agronomy and Range Science Department, University of California, DAVIS)  
Limits to agricultural productivity
398. 1996年6月20日  
a: 米村 正一郎(気象管理科 気象生態研究室)  
農地におけるCO<sub>2</sub>のやりとり  
b: 酒井 英光(気象管理科 気象生態研究室)  
日射条件と水稻群落の物質生産 一葉面積および葉窒素量に注目して一
399. 1996年7月26日  
a: Kazuhiko Kobayashi (Air Quality Conservation Lab. NIAES)  
FACE studies in the world and our Rice FACE project  
b: Bruce A. Kimball (U.S. Water Conservation Laboratory)  
Free-Air CO<sub>2</sub> Enrichment (FACE) Project: Operation and Some Results
400. 1996年8月6日  
a : Ramasamy SUPPIAH(オーストラリアCSIRO大気研究部門)  
Climate Change and Its Impacts on Australian Agriculture  
b : Jung Yeong-Sang (College of Agriculture, Kangweon National University, Korea)  
Title unfixed

401. 1996年9月24日

- a: 小林 和彦(気象管理科 大気保全研究室)  
大気保全研究室と私
- b: 細野 達夫(気象管理科 大気保全研究室)  
水田土壌中のメタンはどのように水稲体にはいりこむのか？

402. 1996年10月3日

Alan E. Green (Horticultural Research, Kerikeri, New Zealand)  
Horticultural Research in New Zealand and some results from the Scintillation experiment at Yawara

403. 1996年11月18日

- a: 三枝 信子(資源環境技術総合研究所 大気環境予測研究室)  
草原生態系－大気間のCO<sub>2</sub>・H<sub>2</sub>O交換の観測とモデル解析
- b: 吉本 真由美(気象管理科 気象特性研究室)  
北極域ツンドラの微気象とCO<sub>2</sub>収支特性

404. 1996年11月28日

大村 纂(スイス連邦工科大学チューリッヒ校地理学教室主任教授)  
A possible change in global agro-climatic conditions under the doubled CO<sub>2</sub>—The results of a high resolution GCM experiment carried out by Max-Planck-Institut and ETH Zurich—

405. 1996年12月16日

- a: Roger H. Shaw (University of California, Davis)  
Large-eddy simulation of windbreak flow
- b: 矢島 正晴(気象管理科 大気生態研究室)  
フィリピンにおける水稲の施肥反応

406. 1997年2月6日

- a: 大谷 義一(森林総合研究所 森林環境部 気象研究室)  
森林貯熱量の観測と推定
- b: Yoshinobu Harazono (Division of Agro-Meteorology, National Institute of Agro-Environental Sciences)  
Carbon dioxide and water budgets in different-aged chaparral stands determined by eddy correlation in spring

407. 1997年3月14日

- a: Andrea Pitacco (Dept. of Environmental Agronomy and Crop Sci, Univ. Padova, Italy)  
Physiological basis of canopy resistance
- b: Alessandro Cescatti (Center of Alpine Ecology, Italy)  
Structure and validation of a faeiative transfer model flro discontinuous canopies of asymmetric crowns

408. 1997年5月19日



- a: 杜 明遠(気象管理科 大気生態研究室)  
防風施設による農業環境の改良・保全について
- b: 後藤 慎吉(気象管理科 気候資源研究室)  
作物群落の表面温度分布から各生育ステージ毎の葉面積歯周(LAI)を推定する手法について

409. 1997年7月24日

- a: 真木 太一(気象管理科)  
環境資源と環境保全に関する日中共同研究の報告
- b: 川方 俊和(農業研究センター 気象立地研究室)  
メッシュ気候値による水稻生育モデルの利用

410. 1997年8月18日

George Vourlitis (San Diego State University, USA)  
Eddy Covariance Measurements of net CO<sub>2</sub> flux and evapotranspiration of and Alaskan moist-tussock tundra ecosystem.

411. 1997年8月28日

- a: Brent E. Clothier (The Horticulture and Food Research Institute of New Zealand)  
Measurement and modeling of chemical movement in the rootzone
- b: Steve R, Green (The Horticulture and Food Research Institute of New Zealand)  
Light interception & utilization by isolated trees: measurements and a model

412. 1997年9月30日

- a: 平井 一男(農業研究センター)  
突発性害虫の多発性と気象の関係
- b: 中井 正樹(富山県農業技術センター山村特産指導所)  
富山県五箇所山地域における250mメッシュ日射量の推定とその活用

413. 1997年11月21日

- a: 井上 君夫(農業研究センター 気候立地研究室)  
農耕地の気候緩和効果について
- b: 井上 聡(気象管理科 大気生態研究室)  
地球環境変化時の降積雪の変動予測

414. 1997年12月18日

- a: 小峰 正史(気象管理科 気象特性研究室, JST)  
CELSSにおけるスピルリナの培養
- b: 宮田 明(気象管理科 気象特性研究室)  
湛水時と落水時の水田のCO<sub>2</sub>、CH<sub>4</sub>フラックスの比較

415. 1998年2月5日

- a: 大野 宏之(国際農林業研究センター)  
モンゴルIMH-JIRCAS共同研究紹介

- b: D. Erdnetsetseg
  - (1) Soil moisture regime in Mongolia
  - (2) Agrometeorological information in Mongolia

416. 1998年3月11日

Andrea Cook (Lawrence Livermore National Laboratory, USA)

Investigating the Long-term Effects of Elevated Atmospheric [CO<sub>2</sub>] on Terrestrial Ecosystems Using Natural CO<sub>2</sub> Springs

417. 1998年3月27日

H.D. Kim

(Remote Sensing Research Lab., Meteorological Research Institute, Korea Meteorological Administration)

Estimation of total OLR flux from GMS-5 IR 1 and WV window radiances and its application

418. 1998年7月13日

森 牧人(筑波大学水理実験センター)

放射冷却の作り出す夜間の局地気象 ～冷気流・冷気湖・斜面温暖帯の素顔～

419. 1998年8月7日

a: 熊谷 樹一郎(農業環境技術研究所 リモートセンシング研究ユニット)

衛星データを用いた広域蒸発散量の推定問題

b: 近藤 昭彦(千葉大学環境リモートセンシング研究センター)

リモートセンシングによる中国華北平原の植生・水文状態量のモニタリング

420～423. (記録逸散で復元不能)

424. 1999年6月4日

a: 野内 勇 (気象管理科)

水性植物のメタン輸送機構

b: 高木健太郎 (気象管理科 気象特性研, JST)

北海道サロベツ湿原の維管束植物群落とミズゴケ群落の蒸発散特性

425. 1999年8月23日

a: 石郷岡康史 (気象管理科 気候資源研究室)

中国寧夏における樹木の虫害と気象の関係

b: 小林義和 (気象管理科 気象特性研究室, JST)

樹幹貯留水分を考慮した樹木内部の水移動特性について

426. 1999年10月7日

a: 太田尚寿 (気象管理科 気象特性研究室)

K-theory Modelによる水稻群落の物質・エネルギー動態シミュレーション

b: 渡辺 力 (森林総合研究所 気象研究室)

森林におけるフラックスの長期観測と個葉－群落－地域スケールモデルへの展開

427. 2000年2月7日

- a: Choi, Teajin, J.Kim, H. Lee  
Micrometeorological measurements in a centrally located short grass site in Tibet, 1998
- b: 井上 聡 (気象管理科 大気生態研究室)  
温暖化と日本の降雪量変化

428. 2000年2月29日

- D. G. Zamolodchikov (Forest Ecology and Production Center of Russian Academy of Science)  
Results of 7 years studies of carbon fluxes in Russian tundra zone

429. 2000年8月30日

- 天野貴文 (日本気象協会調査部応用気象課)  
リモートセンシング技術を用いた気象観測・気象業務について

430. 2000年9月20日

- 名取俊樹 (国立環境研究所)  
「高山生態系の脆弱性と指標性の評価」の紹介－我が国高山帯での植物の生活の視点から－

431. 2000年9月28日

- 鈴木力英 (地球フロンティア研究システム)・田中直実・野牧知之・安成哲三  
シベリアにおける植生指数と気候に関するいくつかの特徴

432. 2000年10月31日

- a: 米村正一郎 (気象管理科 大気生態研究室)  
バイオマス燃焼から発生するガス成分についての事例報告
- b: 杜 明遠 (気象管理科 大気生態研究室)  
放射性Cs-137による土壌侵食量の評価について

433. 2000年11月16日

- a: Tohru Saito (IARC)  
国際北極圏研究センターとアラスカについて
- b: 宮田 明 (気象管理科 気象特性研究室)  
渦相関法で求めた摩擦速度と安定度パラメータを用いて空気力学的方法で決定したスカラー量フラックスの精度の検証

434. 2001年1月18日

- Deug-Soo Kim (Kunsan National University, Korea)  
Measurements of gas emissions from agricultural soils and their characteristics with chamber technique: Emission of NO and N<sub>2</sub>O

435. 2001年2月14日

Md. Abdul Baten (Lab. of Plant Ecology, Dept. of Crop Botany, Bangladesh Agricultural University, Bangladesh)

Studies on the Effect of Row Orientations of Crops on Micrometeorology

436. 2001年6月15日

Dr. FENG Zhiming, Professor

(Institute of Geographical Science and Natural Resource Research, Chinese Academy of Sciences;  
Graduate School of Chinese Science and Technology University, Chinese Academy of Sciences)

Relationship of Land, food and Population in China; Utilization and Management of Agricultural Resources

437. 2001年9月20日

Dr. Kim, Hanyong (JSPS fellow at the University of Tokyo)

大気CO<sub>2</sub>濃度増加がイネの生長、窒素吸収および収量に及ぼす影響—イネFACE実験結果を中心に

438. 2001年12月18日

a: 横沢正幸 (食料変動予測チーム)

MINoSGI(大気—生態系結合モデル)の開発と今後の課題

b: 太田岳史 (名古屋大学 生命農学研究科 水土保持研究分野)

異なる気候条件下での水—エネルギー—CO<sub>2</sub>循環特性の把握の必要性—各種気候帯においてパッチスケールレベルで得られている結果のレビューと今後どのように進めてゆけばいいのか?—

c: 浜田修子 (名古屋大学 農学生命研究科 水土保持研究分野)

シベリアアカマツ林における熱収支特性、また群落コンダクタンスモデルを用いた蒸発散特性についての

解析結果

d: 高田久美子 (地球フロンティア研究システム)

陸面モデルMATSIROを用いたGAMEのツンドラ域における蒸発散とCO<sub>2</sub>フラックスに関する感度実験

e: 岩下広和 (産業技術総合研究所 環境管理研究部門 大気環境評価研究グループ)

(仮題)カナダ幼齡林におけるCO<sub>2</sub>・蒸発散観測(主に融雪期における特徴)

f: 吉本真由美 (気象研究グループ)

Rice FACE(水田における開放的CO<sub>2</sub>増加実験)における気孔コンダクタンスと群落蒸発散の解析

g: 石田 厚 (森林総合研究所 植物生態研究領域 樹木生理研)

インドネシア熱帯降雨林樹木のガス交換特性に対するエルニーニョによる乾燥の影響

h: 桑形恒男 (気象研究グループ)

根圏温度がイネの吸収・蒸散プロセスにおよぼす影響に関する実験的研究

i: 村井麻里 (東北農業研究センター 地域基盤研究部 農業気象研究室)

根圏部の低温が植物の吸収・蒸散、しおれなどにおよぼす影響に関する生理学的研究

439. 2002年2月19日

Dr. Kim, Wonsik (Atmospheric Sciences, Yonsei University, Korea)

The Effect of Expanding Agricultural Area on Runoff in the Chao Phraya River Basin, Thailand

440. 2002年2月21日

Hwang, Soo-Jin (黄 水鎮) (Pusan National University)

Climates of Ice-valley in Korea

441. 2002年3月25日

Changsheng Li (Complex Systems Reseach Center, Institute for the Study of Earth, Oceans and Space,  
University of New Hampshire, Durham, USA)

Potential and challenge of mitigating greenhouse gas emissions from agroecosystems in China

442. 2002年5月13日

Li, Changsheng (Univ. New Hampshire), 小林和彦 (気象研究グループ)

大気中の二酸化炭素の増加による農業生態系の炭素・窒素循環の変化

443. 2002年6月24日

深井 周 (オーストラリア キーンズランド大学)

農作物モデルを利用した品種選択方法の開発(メコン川流域の天水田を例として)

444. 2002年10月1日

李 定澤 (韓国農業技術院農業気象研究室)

気候変化が農業生態系に及ぼす影響とこれに関する今後の研究課題

445. 2003年1月22日

a: 沈志宝教授 (中国科学院蘭州 中国科学院寒区旱区環境与工程研究所)

敦煌でのダスト発生について、特にゴビ砂漠でのダスト発生速度の観測とシミュレーション

b: 李英年研究員 (中国西北高原生物研究所)

中国青海省海北地域における異なる植生類型(群落)の生物生産量について

446. 2003年4月25日

川島茂人(気象研究グループ)

花粉によるトウモロコシの交雑率に与える気象条件の影響

447. 2003年5月30日

後藤慎吉(気象研究グループ)

作物の水要求量の測定と推定について

448. 2003年6月27日

杜 明遠(気象研究グループ)

中国敦煌における風送ダスト(黄砂)発生と地表面条件の関係解明に関する研究

449. 2003年8月21日

Dr.Mohammad Banayan (Ferdowsi Univ.of Mashhad IRAN)

イランの農業について

450. 2003年9月18日

小林和彦(気象研究グループ)

「大気環境と農業」の研究で出会った人・考えたこと

451. 2003年10月23日

- a: 野内 勇(気象研究グループ)  
畑の不耕起栽培は温室効果ガスの発生を抑制できるか？
- b: 石郷岡康史(気象研究グループ)  
東ユーラシアにおける農業水資源評価のための大陸スケールの水循環モデリング

452. 2003年11月21日

- a: 井上 聡(気象研究グループ)  
枯れの進行にともなう蒸発散の変化
- b: 丸山篤志(九州沖縄農業研究センター)  
葉面結露の鉛直分布と熱収支モデルによるそのシミュレーション

453. 2003年12月18日

- a: 酒井英光(気象研究グループ)  
大気CO<sub>2</sub>濃度の上昇による水稲群落呼吸量の変化
- b: 吉本真由美(気象研究グループ)  
大気CO<sub>2</sub>濃度の上昇が水田生態系の熱収支と水利用効率の及ぼす影響  
—FACE実験での観測とモデルによる解析—

454. 2004年3月26日

- a: 長谷川利拓(気象研究グループ)  
作物生育・収量の環境応答—形態的側面から—
- b: 桑形恒男(気象研究グループ)  
根圏温度が水稲の吸収・蒸散プロセスにおよぼす影響とアクアポリンの役割

455. 2004年4月28日

- Dr. Mark Lieffering (AgResearch Ltd. New Zealand)  
How does a grassland ecosystem respond to elevated CO<sub>2</sub>?  
—Experiences from the New Zealand FACE experiments—  
「高CO<sub>2</sub>に対する草地生態系の応答 —ニュージーランドのFACE実験—」

456. 2004年6月18日

- a: 米村正一郎(気象研究グループ)  
ドイツに在外研究で思ったこと
- b: 杜 明遠(気象研究グループ)  
日本最近の黄砂現象と中国のダストストーム発生の関係について

457. 2004年10月23日

- Dr. Steve Long (University of Illinois)
1. Soybean responses to elevated CO<sub>2</sub> and ozone —Results from the Soy FACE experiments in Illinois  
「高CO<sub>2</sub>およびオゾンに対するダイズの応答 —イリノイにおけるダイズFACE実験—」

2. Discussion about Rice FACE results in Japan and China  
「日本および中国におけるイネFACE実験結果のディスカッション」

458. 2004年11月8日

Dr. Wang Cailin (中国江蘇州農学院)

Rice production breeding in Jiangsu Province –current status and future challenge–

「中国江蘇省におけるイネ生産と育種－現状と将来展望－」

459. 2004年11月9日

深井 周 (クィーンズランド大学)

Strategy and technology development to minimize abiotic stresses for rice production in rain-fed

lowland in SE Asia

「東南アジア天水田のイネ生産における環境ストレスを軽減するための対策技術の開発」

460. 2004年11月26日

武田知己 (国立環境研究所 地球環境研究センター)

レーザスキャナを用いたカラマツ林の三次元構造の測定

461. 2004年11月30日

梁 乃申 (国立環境研究所・地球環境研究センター炭素吸収量解析室)

森林生体系炭素収支プロセスの研究

462. 2005年1月17日

松井 勤 (京都大学大学院農学研究科)

イネの葍裂開機構と高温不稔

463. 2005年2月25日

近藤純正 (東北大学名誉教授)

温暖化問題と都市気温－観測所のありかた

464. 2005年6月16日

福岡峰彦 (気象研究グループ)

陸稲における群落表面温度の品種間差異と干ばつ回避性との関連

465. 2005年6月22日

鈴木研二 (JIRCAS), 後藤慎吉 (農環研), 澤野真治 (東大)

東北タイの天水田における水文環境とコメ生産量

466. 2005年7月1日

松本 淳 (東京大学大学院理学系研究科)

インドシナの降雨変動に関する特徴

467. 2005年8月26日

Dillip Kumar Swain, Ph. D. (Environment and Sustainable Development, United Nations Univ.)  
Simulating impact of climate change on rice yield and adaptation strategies for rainfed agro-ecosystem

468. 2005年9月7日

莫 文紅 (岐阜大学流域科学研究センター・特別協力研究員, NIAES受入研究員)

生態プロセス観測による冷温帯林生態系における炭素循環の解明ー土壤呼吸量の時空間変動を中心にー

469. 2005年10月20日

坂田雅正 (高知県農業技術センター作物園芸部)

高知県の稲作における高温障害の現状と対策

470. 2006年1月13日

酒井英光 (気象研究グループ)

水稻の大気CO<sub>2</sub>濃度上昇に対する生長応答の生育に伴う低下の機構

471. 2006年4月24日

a: 江守正多 (国立環境研究所地球環境センター温暖化リスク評価研究室長)

高解像度気候モデルによる気候変化予測とその信頼性

b: 高橋 潔 (国立環境研究所地球環境センター温暖化リスク評価研究室主任研究員)

環境研統合評価モデル研究プロジェクトの中での影響評価モデルの位置づけ

472. 2006年5月8日

常田岳志 (東京大学大学院農学生命科学研究科生物・環境工学専攻環境地水学研究室)

自然湿地からのメタン放出メカニズムー低気圧がもたらすメタンバブル噴出効果ー

473. 2006年6月6日

a: 伊藤昭彦 (国立環境研究所 地球環境研究センター)

陸上生態系の炭素循環モデルの開発と応用

b: 稲富素子 (海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター 生態系変動予測研究プログラム)

プロセスモデルによる森林生態系の温室効果ガス(CO<sub>2</sub>,CH<sub>4</sub>,N<sub>2</sub>O)収支の評価:

日本の冷温帯落葉広葉樹林への適用

474. 2006年10月26日

Dr Mark W.Rosegrant (International Food Policy Research Institute,Washington,D.C.)

IFPRI's research on climate change: modeling the impact of climate change and variability on  
agricultural production and water resources

475. 2006年11月14日

a: Dr. Mark Lieffering (AgResearch Grassland, NZ)

Effects of Elevated CO<sub>2</sub> and an Extreme Drought Event on the Biodiversity of a Grazed Temperate  
Grassland

b: 長谷川利拓 (大気環境研究領域)

Effects of CO<sub>2</sub> on Rice and Paddy Ecosystem



476. 2006年11月27日  
徐 健青 (XU, Jianqing)  
温暖化問題と都市気温－主として中国観測データによる検証
477. 2007年1月12日  
Dr.Abd Allah Abd Elnaby (Rice Research and Training Center,Egypt)  
Sustainability of rice production in Egypt
478. 2007年1月17日  
鈴木力英 (海洋研究開発機構 地球環境フロンティア研究センター)  
植生にとって水分条件と温量条件のどちらが大切か？－衛星データによる全球植生の分析－
479. 2007年2月5日  
林 正貴 (Department of Geology and Geophysics, University of Calgary,Alberta, Canada)  
Effects of micro-topography and vegetation on snowmelt infiltration and groundwater recharge
480. 2007年2月15日  
間野正美 (大気環境研究領域)  
水田生態系の炭素収支と渦相関法の計算方法－農環研の任期付任用期間における研究内容の紹介－
481. 2007年3月26日  
野内 勇 (大気環境研究領域)  
(退職記念講演)大気と植物と人と
482. 2007年5月2日  
木村富士男 (筑波大学大学院生命環境科学研究科)  
作物生産影響評価に対する領域気候モデルの利用可能性とその限界
483. 2007年5月9日  
a: 塩竈秀夫 (国立環境研究所)  
Detection and Attribution of Climate Change, and Observational Constrained Future Projections  
b: 増富祐司 (国立環境研究所)  
演題: マルチ気候モデルを用いた温暖化農業影響のリスク評価
484. 2007年6月18日  
Dr. Tanguy Lafarge (Senior Scientist, Crop Physiology Crop and Environmental Sciences Division)  
Tiller dynamics and crop performance in irrigated rice fields in the tropics and approaches to tackle adaptation to climate change
485. 2007年6月28日  
川島茂人(大気環境研究領域)  
退職記念講演

486. 2007年7月5日

慮 珊 (大気環境研究領域)

Applications of hyperspectral remote sensing in agricultural land and wetland  
農地および湿地におけるハイパースペクトルリモートセンシングの応用

487. 2007年7月12日

飯泉仁之直 (大気環境研究領域)

統計的ダウンスケーリングと領域気候モデルの併用による気候変化予測:  
気象庁統一シナリオ(RCM20)日射量への適用

488. 2007年9月10日

Yinlong XU (Institute of Environment and Sustainable Development in Agriculture, Chinese)  
Estimating Solar Radiation with Sunshine Duration Observation in China

489. 2007年11月13日

a: 伊藤昭彦 (国立環境研究所)

土壌流出を考慮した陸域炭素循環モデルの開発と温暖化影響のシミュレーション

b: 長谷川聡 (国立環境研究所)

気候モデルにおける地球温暖化に伴う熱帯低気圧活動の変化

490. 2007年11月21日

a: Shu Fukai (School of Land, Crop and Food Sciences, The University of Queensland, Australia)  
Coping with abiotic stresses, particularly low water availability in rice-based lowlands in the  
Mekong region

b: 坪 充 (鳥取大学乾燥地研究センター)

干ばつと食料安全保障:南部アフリカの事例

491. 2008年2月27日

小南靖弘 (中央農業総合研究センター 農業気象災害研究チーム主任研究員)  
地域の二酸化炭素の動態における積雪の役割

492. 2008年3月13日

慮 珊 (大気環境研究領域)

Detection of corn pollen release stage using hyperspectral reflectance data

493. 2008年5月19日

福岡峰彦 (大気環境研究領域)

帰国報告:ICRISATへの派遣を終えて

—干ばつ条件下のヒヨコマメ品種群を対象とした群落熱画像による干ばつ回避性の評価—

494. 2008年6月13日

近藤純正 (東北大学名誉教授)

日本のバックグラウンド温暖化量と91都市の都市昇温量

495. 2008年6月20日

Bas Bouman 博士 (国際イネ研究所)  
Aerobic Rice in China

496. 2008年9月12日

谷田貝垂紀代 (総合地球環境学研究所)  
アジアの水資源への温暖化影響評価のための日降水量グリッドデータの作成

497. 2008年10月24日

伊藤昭彦 (国立環境研究所、FRCGC)  
陸域生態系モデルVISITにおけるメタン収支推定の試み

498. 2008年11月4日

納口恭明 (Dr. ナダレンジャー: 防災科研), 中村和樹 (産総研), 井上聡 (大気環境研究領域)  
雪氷楽会 in 東京 - 東大で何が起きたのか? 科学イベントについて考えてみる

499. 2009年2月5日

ANZOYA Kossonou Guillaume (北海道大学大学院・農学研究科)  
One century of rice production in the cold environment of Hokkaido, Northern Japan  
-Genetic improvement of growth and yield under different levels of nitrogen during the 20th century-

500. 2009年3月16日

Dr. Andrew Leakey (Department of Plant Biology, Institute for Genomic Biology, University of Illinois)  
Genomic, Physiological & Ecological Responses of Soybeans to Elevated [CO<sub>2</sub>]: A Case Study from SoyFACE

「300回の歩み」(農業環境技術研究所気象管理科、1987年2月発行)より、「まえがき」(全文転載)

科学研究および技術研究は、多くの場合些細な発見・発明の時間積分に比例して進歩することが多いといわれている。それは個人とかある研究グループの研究の展開の場合にもあてはまり、過去から現在までの蓄積量と現時点での正しい方向への展開努力との加算か乗算かによって、現在の研究のアクティビティと成果がきまるものと思われる。もちろん、個人個人のもつ研究的な勤(コンピューターにならってコンピューターという人もいる)の鋭さが研究の展開に影響することは否定しないが、そのコンピューター自身も過去・現在・未来の莫大な情報を高速で処理していることは忘れてはならない。

それゆえ、ある研究グループの現在の活性を知り未来へ備えるためには、現在までの研究活動の歴史をひもどき、それに基づき、かつ社会と科学・技術の新しい流れを参照しながら、反省すべき点、伸ばすべき点、さらにはつけ加えるべき点を探ることが大切である。このような活動の基礎となるのは研究グループの科学研究的年代表である。これはたとえば、生物進化の研究における古生物学的年代表の価値に似ている。多くの研究者の努力によって蓄積された莫大な量の化石標本は地層学的または岩石学的なデータを用いて時間軸上に配列された。

このようにして作られた古生物学的年代表から20～30億年にわたる生物進化の大ロマンや生物圏を絶滅の淵に追いやった地球的気候破局(例えば白亜紀末期、約6000万年前)の様相が明らかにされた。しかも、小惑星や巨大隕石の落下による地球的気候破局の研究は核戦争による気候破局《核の冬》の認識へと発展していった。上のようなドラマティックな発見を、ある研究グループの科学的年代表に求めることは全くできないが、最初に指摘したような意味で、最近叫ばれている独創的研究(独創の入っていない研究があるのか疑問に思うが)の推進や研究者の活性化には役立つものを発見できる可能性を秘めているように思われる。

幸い、農環研・気象管理科では農業気象談話会を月例としてもっているが、その形成母体となった農技研・気象科時代から数えると約30年間300回を越える回数になっている。昭和32年(1958)に当時の物理第2研究室長井上栄一博士によって提唱され、科全員の賛同をえてスタートした気象科月例読書会は折々の研究話題を1～2時間ずつ話し、討論するという形で、多くの幹事および科員一同、または科外からの参加者の協力の下に絶えることなく引きつがれてきた。そして、昭和61年(1986)8月12日に記念すべき300回を迎えた。

本来なら多くの関係者の参集をえて盛大な記念の農業気象談話会を開き、300回という一つの積重ねを祝うべきであるが、300回の積重ねの一つ一つのセグメントをならべ若干の説明を加えて小さな科学研究年代表を作成して発表することにした。この年代表は農業技術研究所・気象科(昭和25年4月～昭和58年11月)と農業環境技術研究所・気象管理科(昭和58年12月より)を中心とする農業気象・気象環境研究の大きな流れを表している。その構築には、内容に見られるように上期の期間にそれぞれの組織に所属された研究者や外部からの参加研究者の長期にわたる努力が傾けられている。この小さな科学研究年代表の編集・刊行に際してそれらの方々の長年の努力に深く感謝の言葉を述べる。

昭和 62 年 1 月 6 日

内嶋善兵衛